

0001 6-1 施工経験記述 > 施工計画の記述 | 難易度：基礎

問題：施工計画に関する経験記述として、最も評価されやすい内容はどれか。

ア．既設病院の給水停止時間が4時間に制限されたため、事前調査で既設配管系統を確認し、切替手順・仮設給水・人員配置を計画して停止時間内に切替を完了した。

イ．施工計画について十分に注意して工事を行った。
ウ．工事が難しかったので全員で頑張って完成させた。
エ．施工計画書を作成したので特に問題はなかった。

答え・解説 正答：ア

ア：正しい。工事条件、課題、具体的な計画内容、実施結果が一連で示され、施工管理上の判断が明確である。
イ：誤り。何に注意し、何を計画したかが具体的でない。
ウ：誤り。施工管理上の技術的判断が示されていない。
エ：誤り。書類作成の事実だけで具体的な管理内容が分からない。

総合解説：工事条件、課題、具体的な計画内容、実施結果が一連で示され、施工管理上の判断が明確である。。第二次検定では、条件・課題・判断根拠・具体策・確認結果を一貫して整理できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0002 6-1 施工経験記述 > 施工計画の記述 | 難易度：基礎

問題：1級管工事施工管理技術検定の実務経験として、最も適切なものはどれか。

ア．管工事会社の経理業務だけを担当した経験。
イ．管工事の施工計画作成や工程・品質・安全管理に直接関わった経験。
ウ．完成建物の賃貸営業だけを担当した経験。
エ．工事とは無関係な商品の販売促進だけを担当した経験。

答え・解説 正答：イ

ア：誤り。施工管理に直接関わる技術上の職務経験ではない。
イ：正しい。公式手引では、施工計画、工程管理、品質管理、安全管理等の施工管理に直接関わる技術上の職務経験を実務経験としている。
ウ：誤り。管工事の施工管理経験ではない。
エ：誤り。工事施工管理に直接関与していない。

総合解説：公式手引では、施工計画、工程管理、品質管理、安全管理等の施工管理に直接関わる技術上の職務経験を実務経験としている。。第二次検定では、条件・課題・判断根拠・具体策・確認結果を一貫して整理できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0003 6-1 施工経験記述 > 施工計画の記述 | 難易度：基礎

問題：施工計画書の作成時期として、最も適切なものはどれか。

- ア．工事完成後に実績をまとめるだけでよい。
- イ．施工が半分終わってから作成すればよい。
- ウ．工事の着手や当該工種の施工に先立って作成し、必要な調整・提出を行う。
- エ．問題が発生した場合だけ作成する。

答え・解説 正答：ウ

- ア：誤り。完成後だけでは事前管理にならない。
- イ：誤り。施工前に計画を整える必要がある。
- ウ：正しい。施工計画は施工前に検討し、実際の施工に反映するためのものである。
- エ：誤り。問題の有無にかかわらず必要な計画を事前に作成する。

総合解説：施工計画は施工前に検討し、実際の施工に反映するためのものである。。第二次検定では、条件・課題・判断根拠・具体策・確認結果を一貫して整理できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0004 6-1 施工経験記述 > 施工計画の記述 | 難易度：基礎

問題：天井内で空調ダクト、給排水配管、電気ケーブルラックが交錯する工事の施工計画として、最も適切なものはどれか。

- ア．各工種が先に入った順に自由に施工する。
- イ．干渉した箇所だけ現場で配管を曲げて対応する。
- ウ．完成時に天井が閉まれば点検スペースは考慮しない。
- エ．施工図で干渉を確認し、他工種と施工順序・高さ・点検スペースを調整してから施工する。

答え・解説 正答：エ

- ア：誤り。無調整では干渉や手戻りが生じやすい。
- イ：誤り。場当たり的な変更は性能・保守性へ影響する。
- ウ：誤り。維持管理に必要な点検スペースも考慮する。
- エ：正しい。関連工事との納まりや施工順序を施工前に調整することが施工計画上で重要である。

総合解説：関連工事との納まりや施工順序を施工前に調整することが施工計画上で重要である。。第二次検定では、条件・課題・判断根拠・具体策・確認結果を一貫して整理できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0005 6-1 施工経験記述 > 施工計画の記述 | 難易度：標準

問題：機械室への大型冷凍機搬入で、搬入口寸法が機器外形より小さいことが事前調査で判明した。最も適切な施工計画上の対応はどれか。

- ア．分割搬入の可否、搬入口拡張、揚重経路、仮設計画を比較し、設計者・監督職員等と協議して実施可能な方法を決める。
- イ．納入当日に現場で考える。
- ウ．機器を無断で切断して搬入する。
- エ．搬入口寸法を確認せずメーカーへ発送させる。

答え・解説 正答：ア

- ア：正しい。事前条件を把握し、代替案を比較して関係者と調整するのが適切である。
- イ：誤り。搬入不能や工程遅延を招く。
- ウ：誤り。機器性能や保証へ重大な影響がある。
- エ：誤り。事前確認不足である。

総合解説：事前条件を把握し、代替案を比較して関係者と調整するのが適切である。。第二次検定では、条件・課題・判断根拠・具体策・確認結果を一貫して整理できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0006 6-1 施工経験記述 > 施工計画の記述 | 難易度：標準

問題：既設配管を撤去して新設配管へ切り替える工事で、最も適切な施工手順はどれか。

- ア．最初に既設配管を全撤去してから新設方法を検討する。
- イ．新設可能部分を先行施工し、試験・確認後に停止時間を確保して既設系統を切り替える。
- ウ．試験を行わず完成後に漏水の有無を確認する。
- エ．停止時間の制約を考慮せず作業員任せにする。

答え・解説 正答：イ

- ア：誤り。供給停止長期化のリスクが高い。
- イ：正しい。停止時間を最小化し、切替前に新設部分の品質確認を行う合理的な手順である。
- ウ：誤り。切替前に必要な試験・確認を行うべきである。
- エ：誤り。制約条件を施工計画へ反映する必要がある。

総合解説：停止時間を最小化し、切替前に新設部分の品質確認を行う合理的な手順である。。第二次検定では、条件・課題・判断根拠・具体策・確認結果を一貫して整理できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0007 6-1 施工経験記述 > 施工計画の記述 | 難易度：標準

問題：稼働中施設で排水管更新中もトイレを使用可能にする必要がある。最も適切な施工計画はどれか。

- ア．全館の排水を無計画に停止する。
- イ．仮設配管の勾配や固定を確認せず使用する。
- ウ．仮設排水経路と切替手順を計画し、漏水・逆流・衛生上のリスクを確認して段階施工する。
- エ．利用者への周知を行わず突然切替える。

答え・解説 正答：ウ

- ア：誤り。施設条件を満たしていない。
- イ：誤り。仮設でも機能と安全を確保する必要がある。
- ウ：正しい。施設機能を維持しつつ安全・衛生を確保する仮設計画が必要である。
- エ：誤り。利用者への影響を考えた調整が必要である。

総合解説：施設機能を維持しつつ安全・衛生を確保する仮設計画が必要である。。第二次検定では、条件・課題・判断根拠・具体策・確認結果を一貫して整理できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0008 6-1 施工経験記述 > 施工計画の記述 | 難易度：標準

問題：施工中に設計条件が変更され、当初の施工手順では対応できなくなった。最も適切な対応はどれか。

- ア．当初計画を変更せず無理に施工する。
- イ．現場作業員だけで変更し記録を残さない。
- ウ．完成後に変更理由だけまとめればよい。
- エ．変更条件を確認し、施工計画・工程・品質・安全への影響を再検討して必要な変更を関係者へ報告・協議する。

答え・解説 正答：エ

- ア：誤り。条件不一致のまま施工するのは不適切である。
- イ：誤り。関係者への共有と記録が必要である。
- ウ：誤り。施工前・施工中に適切に変更管理する。
- エ：正しい。施工計画に変更が必要な場合は影響を検討し、適切な手続と記録を行う。

総合解説：施工計画に変更が必要な場合は影響を検討し、適切な手続と記録を行う。。第二次検定では、条件・課題・判断根拠・具体策・確認結果を一貫して整理できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0009 6-1 施工経験記述 > 施工計画の記述 | 難易度：標準

問題：施工経験記述で自分の施工管理上の役割を示す表現として、最も適切なものはどれか。

- ア．私は担当技術者として、既設配管調査結果を基に切替工程を作成し、作業班と他工種の調整を行った。
- イ．現場ではいろいろな人が工事を行った。
- ウ．会社として安全に注意した。
- エ．施工管理は上司がすべて行ったが、工事は完成した。

答え・解説 正答：ア

- ア：正しい。本人が何を判断し、何を管理したかが具体的に示されている。
- イ：誤り。本人の役割が分からない。
- ウ：誤り。主体と具体的行動が不明確である。
- エ：誤り。本人の施工管理経験を示していない。

総合解説：本人が何を判断し、何を管理したかが具体的に示されている。。第二次検定では、条件・課題・判断根拠・具体策・確認結果を一貫して整理できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0010 6-1 施工経験記述 > 施工計画の記述 | 難易度：標準

問題：施工経験記述を具体化する方法として、最も適切なものはどれか。

- ア．すべて『十分』『適切』だけで表現する。
- イ．停止可能時間、搬入重量、作業人数、工程日数など、判断に関係した条件を必要な範囲で数値化して記述する。
- ウ．数値条件は一切書かず抽象表現だけにする。
- エ．工事と関係のない会社売上高を詳しく書く。

答え・解説 正答：イ

- ア：誤り。抽象語だけでは具体性が不足する。
- イ：正しい。技術判断に関係する具体的条件を示すと、課題と対策の対応関係が明確になる。
- ウ：誤り。必要な数値条件は有効である。
- エ：誤り。施工管理判断に直接関係しない情報である。

総合解説：技術判断に関係する具体的条件を示すと、課題と対策の対応関係が明確になる。。第二次検定では、条件・課題・判断根拠・具体策・確認結果を一貫して整理できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0011 6-1 施工経験記述 > 施工計画の記述 | 難易度：応用

問題：「課題：搬入経路が狭く大型機器をそのまま搬入できない」に対する施工計画の記述として、最も整合するものはどれか。

- ア．作業員へ熱中症対策の飲料を配布した。
- イ．配管の保温材厚さを再確認した。
- ウ．機器の分割可能寸法と重量をメーカーに確認し、分割搬入後の現地組立・試験まで含めた搬入計画を策定した。
- エ．工程表の休日欄だけを修正した。

答え・解説 正答：ウ

- ア：誤り。安全管理上重要でも搬入制約への直接対策ではない。
- イ：誤り。品質管理事項だが搬入課題と対応していない。
- ウ：正しい。課題である搬入制約に直接対応する対策になっている。
- エ：誤り。搬入方法の解決になっていない。

総合解説：課題である搬入制約に直接対応する対策になっている。。第二次検定では、条件・課題・判断根拠・具体策・確認結果を一貫して整理できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0012 6-1 施工経験記述 > 施工計画の記述 | 難易度：応用

問題：施工計画に関する経験記述の締めくくりとして、最も適切なものはどれか。

- ア．計画を立てたので良かったと思う。
- イ．工事はなんとなく終わった。
- ウ．結果は確認していないが計画は正しかったはずである。
- エ．計画した手順により供給停止を3時間以内に抑え、漏水なく切替を完了し、施設運営への影響を最小化できた。

答え・解説 正答：エ

- ア：誤り。客観的な結果が示されていない。
- イ：誤り。施工管理上の評価になっていない。
- ウ：誤り。効果確認がない。
- エ：正しい。実施結果を具体的に確認し、計画の有効性を示している。

総合解説：実施結果を具体的に確認し、計画の有効性を示している。。第二次検定では、条件・課題・判断根拠・具体策・確認結果を一貫して整理できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0013 6-1 施工経験記述 > 品質管理の記述 | 難易度：基礎

問題：品質管理に関する施工経験記述として、最も適切な構成はどれか。

- ア．要求品質と品質上の課題を示し、確認方法・基準・実施措置・確認結果を具体的に記述する。
- イ．品質に注意した、とだけ記述する。
- ウ．使用材料の商品名だけを列挙する。
- エ．工期と安全だけを書き、品質確認は記載しない。

答え・解説 正答：ア

- ア：正しい。品質管理では要求事項、課題、管理方法、判定、結果の対応関係が重要である。
- イ：誤り。管理内容が具体的でない。
- ウ：誤り。材料名だけでは品質管理の判断が分からない。
- エ：誤り。品質管理の記述になっていない。

総合解説：品質管理では要求事項、課題、管理方法、判定、結果の対応関係が重要である。。第二次検定では、条件・課題・判断根拠・具体策・確認結果を一貫して整理できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0014 6-1 施工経験記述 > 品質管理の記述 | 難易度：基礎

問題：公共建築工事標準仕様書における品質計画の説明として、最も適切なものはどれか。

- ア．工事費の利益率だけを示すもの。
- イ．設計図書で要求された品質を満たすため、工法等の精度の目標、品質管理および体制を具体的に示すもの。
- ウ．作業員の通勤方法だけを示すもの。
- エ．完成後の広告計画を示すもの。

答え・解説 正答：イ

- ア：誤り。利益管理の計画ではない。
- イ：正しい。品質計画は要求品質を実現するための目標・管理方法・体制を示す。
- ウ：誤り。通勤計画ではない。
- エ：誤り。広告計画ではない。

総合解説：品質計画は要求品質を実現するための目標・管理方法・体制を示す。。第二次検定では、条件・課題・判断根拠・具体策・確認結果を一貫して整理できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0015 6-1 施工経験記述 > 品質管理の記述 | 難易度：基礎

問題：配管の耐圧試験を実施した際の記録管理として、最も適切なものはどれか。

- ア．合格した場合は一切記録しない。
- イ．記憶しておけば書面は不要である。
- ウ．試験条件、実施日時、測定結果、判定、実施者等を記録し、必要に応じて提出・提示できるよう整理する。
- エ．試験圧力だけ後から推測して記入する。

答え・解説 正答：ウ

- ア：誤り。可否にかかわらず品質確認記録が重要である。
- イ：誤り。客観的な記録が必要である。
- ウ：正しい。試験を行った場合は直ちに記録を作成し、品質確認の根拠として残す。
- エ：誤り。実測値を正確に記録する。

総合解説：試験を行った場合は直ちに記録を作成し、品質確認の根拠として残す。。第二次検定では、条件・課題・判断根拠・具体策・確認結果を一貫して整理できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0016 6-1 施工経験記述 > 品質管理の記述 | 難易度：標準

問題：天井閉鎖後に目視確認できなくなる配管支持・保温施工の品質管理として、最も適切なものはどれか。

- ア．天井を閉じた後に記憶だけで確認済みとする。
- イ．隠ぺい部は完成後に見えないので品質管理対象外とする。
- ウ．写真だけ撮り、基準との適否は確認しない。
- エ．隠ぺい前に所定の確認を行い、施工状況を写真・記録で残してから閉鎖する。

答え・解説 正答：エ

- ア：誤り。客観的確認ができない。
- イ：誤り。むしろ隠ぺい前の確認が重要である。
- ウ：誤り。記録だけでなく基準適合の判定が必要である。
- エ：正しい。後日確認困難な部分は隠ぺい前の確認と記録が重要である。

総合解説：後日確認困難な部分は隠ぺい前の確認と記録が重要である。。第二次検定では、条件・課題・判断根拠・具体策・確認結果を一貫して整理できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0017 6-1 施工経験記述 > 品質管理の記述 | 難易度：標準

問題：現場搬入されたバルブが設計仕様と異なる圧力クラスであることが判明した。最も適切な対応はどれか。

- ア．使用を保留し、仕様適合を確認して不適合なら交換・是正し、誤使用を防ぐ。
- イ．見た目が同じなのでそのまま施工する。
- ウ．施工後に問題が起きたら交換する。
- エ．倉庫担当者だけに伝え、施工班には知らせない。

答え・解説 正答：ア

- ア：正しい。設計図書に適合しない機材を使用せず、誤使用防止と是正を行う。
- イ：誤り。外觀一致だけで性能適合を判断できない。
- ウ：誤り。施工前に不適合を処置する。
- エ：誤り。関係者への識別・周知が必要である。

総合解説：設計図書に適合しない機材を使用せず、誤使用防止と是正を行う。。第二次検定では、条件・課題・判断根拠・具体策・確認結果を一貫して整理できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0018 6-1 施工経験記述 > 品質管理の記述 | 難易度：標準

問題：品質判定に使用する圧力計の校正有効期限が切れていることが判明した。最も適切な対応はどれか。

- ア．数値がそれらしいのでそのまま採用する。
- イ．その測定値だけで合否判定せず、適切に管理された測定機器で再確認する。
- ウ．作業員が経験豊富なら校正は不要である。
- エ．圧力計を軽く叩いて動けば使用する。

答え・解説 正答：イ

- ア：誤り。測定値の信頼性が保証できない。
- イ：正しい。判定に用いる測定機器の信頼性を確保し、必要なら再測定する。
- ウ：誤り。経験は測定機器管理を代替しない。
- エ：誤り。簡易動作確認だけでは校正の代わりにならない。

総合解説：判定に用いる測定機器の信頼性を確保し、必要なら再測定する。。第二次検定では、条件・課題・判断根拠・具体策・確認結果を一貫して整理できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0019 6-1 施工経験記述 > 品質管理の記述 | 難易度：標準

問題：配管接合部で漏れが複数発生した経験を品質管理として記述する場合、最も適切な内容はどれか。

- ア．漏れたので全員にもっと気をつけるよう言った。
- イ．原因を調べず、漏れた箇所だけ塗装した。
- ウ．施工記録と現物を確認して接合手順のばらつきを原因と特定し、作業標準の再周知・技能確認・自主検査強化を実施した。
- エ．漏れは偶然として記録しなかった。

答え・解説 正答：ウ

- ア：誤り。注意喚起だけでは原因に対する対策が弱い。
- イ：誤り。根本原因を除去していない。
- ウ：正しい。原因を分析し、原因に対応した具体的な正・再発防止を行っている。
- エ：誤り。再発防止につながらない。

総合解説：原因を分析し、原因に対応した具体的な正・再発防止を行っている。。第二次検定では、条件・課題・判断根拠・具体策・確認結果を一貫して整理できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0020 6-1 施工経験記述 > 品質管理の記述 | 難易度：標準

問題：品質管理の経験記述で規格値を示す際の方法として、最も適切なものはどれか。

- ア．覚えている一般値を根拠なく記載する。
- イ．基準を確認せず自社独自値だけで合格とする。
- ウ．実測値が悪い場合は基準値を書き換える。
- エ．設計図書・仕様書・承認資料等に基づく適用基準を確認し、その基準に対する実測結果と判定を記述する。

答え・解説 正答：エ

- ア：誤り。根拠のない値は不適切である。
- イ：誤り。契約上の要求品質との適合確認が必要である。
- ウ：誤り。結果に合わせて基準を変更してはならない。
- エ：正しい。品質判定は適用される要求事項を根拠に行う必要がある。

総合解説：品質判定は適用される要求事項を根拠に行う必要がある。。第二次検定では、条件・課題・判断根拠・具体策・確認結果を一貫して整理できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0021 6-1 施工経験記述 > 品質管理の記述 | 難易度：応用

問題：品質管理に関する経験記述の結果として、最も適切な表現はどれか。

- ア．是正後に再試験を行い、全測定点が設計図書の基準を満足したことを確認して次工程へ進んだ。
- イ．品質は良くなった気がした。
- ウ．問題はたぶんなかった。
- エ．工期に間に合ったので品質も合格とした。

答え・解説 正答：ア

- ア：正しい。再確認結果を基準との比較で客観的に示している。
- イ：誤り。主観的で判定根拠がない。
- ウ：誤り。確認結果が示されていない。
- エ：誤り。工程達成と品質適合は別に確認する必要がある。

総合解説：再確認結果を基準との比較で客観的に示している。。第二次検定では、条件・課題・判断根拠・具体策・確認結果を一貫して整理できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0022 6-1 施工経験記述 > 品質管理の記述 | 難易度：応用

問題：施工方法変更に伴い、当初の品質確認方法では適否を判断できなくなった。最も適切な対応はどれか。

- ア．品質確認を省略して工程を優先する。
- イ．新しい施工方法に対応する品質管理項目・確認段階・判定方法を再設定し、必要な承諾・協議を行ってから施工する。
- ウ．当初の検査方法を形式的に実施し、適合性は考えない。
- エ．完成後に問題が出た場合だけ確認方法を定める。

答え・解説 正答：イ

- ア：誤り。品質確保の根拠がなくなる。
- イ：正しい。施工方法変更に応じ品質計画を見直し、要求品質を確保できる確認方法を設定する。
- ウ：誤り。施工方法に適合する確認が必要である。
- エ：誤り。施工前に確認方法を定める。

総合解説：施工方法変更に応じ品質計画を見直し、要求品質を確保できる確認方法を設定する。。第二次検定では、条件・課題・判断根拠・具体策・確認結果を一貫して整理できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0023 6-1 施工経験記述 > 安全管理の記述 | 難易度：基礎

問題：安全管理の施工経験として「天井内の開口部付近で配管作業を行った」事例を記述する場合、最も適切な内容はどれか。

- ア．『安全第一で作業した』とだけ記述し、開口部への具体策は書かない。
- イ．工事金額と工期だけを記述し、安全管理の判断は省略する。
- ウ．開口部からの墜落を主要リスクと捉え、作業前に覆い・手すりの状態を確認し、必要な立入管理と墜落防止措置を実施した内容を具体的に記述する。
- エ．作業員の人数だけを詳しく記述し、危険源や対策は示さない。

答え・解説 正答：ウ

- ア：誤り。抽象的で、どの危険をどう低減したかが分らない。
- イ：誤り。工事概要だけでは安全管理経験を示せない。
- ウ：正しい。事例固有の危険源と、それに対応した具体的な低減措置を示すことで施工管理上の判断が明確になる。
- エ：誤り。人数だけでは安全管理の内容を説明できない。

総合解説：安全管理の経験記述では、現場固有の危険源を示し、その危険に直接対応する設備・管理・保護措置を具体的に示すことが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0024 6-1 施工経験記述 > 安全管理の記述 | 難易度：基礎

問題：施工経験記述で複数の危険があった場合の取り上げ方として、最も適切なものはどれか。

- ア．すべての危険を同じ一文でまとめる。
- イ．軽微な危険だけを選び重大な危険は避けて書く。
- ウ．発生可能性だけで判断し重篤度は考えない。
- エ．重篤度と発生可能性を考慮し、重大災害につながるリスクを優先して具体的な対策を記述する。

答え・解説 正答：エ

- ア：誤り。対策との対応が不明確になる。
- イ：誤り。重要な安全管理判断を示せない。
- ウ：誤り。重篤度も重要である。
- エ：正しい。リスク評価では重篤度と発生可能性を踏まえて優先度を定める。

総合解説：リスク評価では重篤度と発生可能性を踏まえて優先度を定める。。第二次検定では、条件・課題・判断根拠・具体策・確認結果を一貫して整理できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0025 6-1 施工経験記述 > 安全管理の記述 | 難易度：標準

問題：高さ8mの架台上で配管接続を行った経験の安全管理記述として、最も適切なものはどれか。

- ア．作業床・手すりの状態を事前確認し、開口部を養生するとともに必要箇所で墜落制止用器具を使用し、下方も立入管理した。
- イ．保護帽を着用したので墜落対策は不要とした。
- ウ．高所なので気をつけて作業した。
- エ．熟練者だけを配置したので設備対策はしなかった。

答え・解説 正答：ア

- ア：正しい。墜落・落下物の危険に対し、設備・保護具・立入管理を組み合わせている。
- イ：誤り。保護帽は墜落防止措置ではない。
- ウ：誤り。具体的な対策がない。
- エ：誤り。熟練度だけに依存できない。

総合解説：墜落・落下物の危険に対し、設備・保護具・立入管理を組み合わせている。。第二次検定では、条件・課題・判断根拠・具体策・確認結果を一貫して整理できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0026 6-1 施工経験記述 > 安全管理の記述 | 難易度：標準

問題：大型機器の揚重作業に関する安全管理記述として、最も適切なものはどれか。

- ア．合図は作業員全員が自由に行った。
- イ．吊り荷重量とクレーン能力、設置地盤、玉掛け方法を確認し、合図者を一本化して吊り荷下を立入禁止とした。
- ウ．クレーン会社へ任せたので自分は何も確認しなかった。
- エ．吊り荷が軽く見えたので重量確認を省略した。

答え・解説 正答：イ

- ア：誤り。合図系統の混乱を招く。
- イ：正しい。揚重計画の主要な危険要因と具体的管理措置を示している。
- ウ：誤り。施工管理者としての関与が示されない。
- エ：誤り。重量・能力確認は重要である。

総合解説：揚重計画の主要な危険要因と具体的管理措置を示している。。第二次検定では、条件・課題・判断根拠・具体策・確認結果を一貫して整理できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0027 6-1 施工経験記述 > 安全管理の記述 | 難易度：標準

問題：作業途中で搬入経路が変更され、歩行者通路とフォークリフト動線が交差することになった。最も適切な対応はどれか。

- ア．歩行者へ自己責任で避けてもらう。
- イ．当初計画を実施済みなので何も変えない。
- ウ．変更後の動線でリスクを再評価し、時間分離・誘導・バリケード等の対策を追加して関係者へ周知する。
- エ．フォークリフト運転者だけに注意する。

答え・解説 正答：ウ

- ア：誤り。管理側で危険を低減する必要がある。
- イ：誤り。新たな交錯リスクが生じている。
- ウ：正しい。作業条件変更時は新たな危険を再評価し、対策を見直す。
- エ：誤り。片側だけの注意では不十分である。

総合解説：作業条件変更時は新たな危険を再評価し、対策を見直す。。第二次検定では、条件・課題・判断根拠・具体策・確認結果を一貫して整理できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0028 6-1 施工経験記述 > 安全管理の記述 | 難易度：標準

問題：安全管理の経験記述の結果として、最も適切なものはどれか。

- ア．結果は確認していない。
- イ．事故が起きなかったので運が良かった。
- ウ．安全だったと思う。
- エ．対策実施後、作業期間中は危険区域への立入りがなく、計画した手順で無災害に作業を完了した。

答え・解説 正答：エ

- ア：誤り。対策効果の確認がない。
- イ：誤り。施工管理上の評価ではない。
- ウ：誤り。客観性が乏しい。
- エ：正しい。対策の実施状況と結果を具体的に示している。

総合解説：対策の実施状況と結果を具体的に示している。。第二次検定では、条件・課題・判断根拠・具体策・確認結果を一貫して整理できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0029 6-1 施工経験記述 > 安全管理の記述 | 難易度：応用

問題：「危険：天井内作業で工具が下方へ落下するおそれ」に対する対策として最も適切なものはどれか。

- ア．工具の落下防止措置を行い、下方作業を時間分離し、必要な範囲を立入禁止とした。
- イ．工程表の休日を変更した。
- ウ．作業員に水分補給を指示した。
- エ．配管の保温厚を再確認した。

答え・解説 正答：ア

- ア：正しい。工具落下という危険に直接対応する対策である。
- イ：誤り。直接的な危険低減になっていない。
- ウ：誤り。熱中症対策であり落下物対策ではない。
- エ：誤り。品質管理事項である。

総合解説：工具落下という危険に直接対応する対策である。。第二次検定では、条件・課題・判断根拠・具体策・確認結果を一貫して整理できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0030 6-1 施工経験記述 > 安全管理の記述 | 難易度：応用

問題：稼働中の工場で、高所配管撤去、溶接、新設機器搬入を同日に行う計画である。最も適切な安全管理はどれか。

- ア．保護帽着用だけを共通対策とする。
- イ．各作業の危険を整理し、高所・火気・揚重作業の区域と時間を調整して相互干渉を避け、作業前に手順と役割を共有する。
- ウ．全作業を同じ区域で同時に行い各自に注意させる。
- エ．最も早い作業班から自由に開始させる。

答え・解説 正答：イ

- ア：誤り。保護具だけでは複合リスクを管理できない。
- イ：正しい。複数作業の相互干渉を施工計画段階で除去・低減することが重要である。
- ウ：誤り。混在による重大リスクが高まる。
- エ：誤り。全体調整が必要である。

総合解説：複数作業の相互干渉を施工計画段階で除去・低減することが重要である。。第二次検定では、条件・課題・判断根拠・具体策・確認結果を一貫して整理できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0031 6-2 工程・品質事例 > 工程遅延への対応 | 難易度：基礎

問題：主要機器の納入が予定より2週間遅れることが判明した。工程管理の初動として最も適切なものはどれか。

- ア．納入まで何もせず待つ。
- イ．全作業員を増員すれば影響確認は不要である。
- ウ．遅延が影響する作業とクリティカルな工程を確認し、他作業の前倒しや施工順序変更など代替案を検討する。
- エ．竣工日を直ちに変更し、他の対策は検討しない。

答え・解説 正答：ウ

- ア：誤り。待機だけでは回復機会を失う。
- イ：誤り。増員効果は作業条件により異なる。
- ウ：正しい。まず工程への影響を分析し、遅延吸収可能な作業や順序変更を検討する。
- エ：誤り。竣工日変更の前に回復策を検討する。

総合解説：まず工程への影響を分析し、遅延吸収可能な作業や順序変更を検討する。。第二次検定では、条件・課題・判断根拠・具体策・確認結果を一貫して整理できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0032 6-2 工程・品質事例 > 工程遅延への対応 | 難易度：基礎

問題：病院の給水切替工事で、発注者から断水可能時間を当初の6時間から3時間へ短縮する条件変更が示された。工程管理として最も適切な対応はどれか。

- ア．断水時間だけ工程表上で3時間に書き換え、施工手順や人員は変更しない。
- イ．当初の6時間工程を変更せず、作業当日に3時間で終わることを期待する。
- ウ．品質確認を省略して作業時間を短縮する。
- エ．切替前に先行できる配管・試験を増やし、作業手順・人員配置・仮設給水を再検討して実施工程表を更新し、関係者と調整する。

答え・解説 正答：エ

- ア：誤り。表示だけの変更では実際の作業時間は短縮できない。
- イ：誤り。条件変更を施工計画へ反映していない。
- ウ：誤り。工程回復を理由に必要な品質確認を省略してはならない。
- エ：正しい。施工条件の変更を工程・手順・人員・仮設条件へ具体的に反映し、実施可能な工程へ更新する必要がある。

総合解説：施工条件が変更された場合は、実施工程表の表示だけでなく、施工手順・先行作業・人員・仮設条件まで再検討し、実現可能な工程へ更新することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0033 6-2 工程・品質事例 > 工程遅延への対応 | 難易度：基礎

問題：工程遅延の原因分析として、最も適切な考え方はどれか。

- ア．資材納期、施工能力、他工種干渉、設計変更、天候など原因を具体化し、回復策が効く要因と効かない要因を分ける。
- イ．遅延はすべて作業員の努力不足と決める。
- ウ．原因を調べず残業時間だけ増やす。
- エ．工程表の色を変えるだけで原因分析を完了する。

答え・解説 正答：ア

- ア：正しい。原因に応じて対策を選ぶため、遅延要因を具体的に整理する必要がある。
- イ：誤り。原因を単純化し過ぎている。
- ウ：誤り。原因に合わない対策は効果が乏しい。
- エ：誤り。表示変更は原因分析ではない。

総合解説：原因に応じて対策を選ぶため、遅延要因を具体的に整理する必要がある。。第二次検定では、条件・課題・判断根拠・具体策・確認結果を一貫して整理できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0034 6-2 工程・品質事例 > 工程遅延への対応 | 難易度：基礎

問題：複数作業が遅れている場合、回復対策の優先順位として最も適切なものはどれか。

- ア．遅延日数が最も少ない作業だけを優先する。
- イ．全体工期へ直接影響するクリティカルな作業を優先して回復策を検討する。
- ウ．工期に影響しない余裕作業だけへ人員を集中する。
- エ．作業名の五十音順で対策する。

答え・解説 正答：イ

- ア：誤り。遅延日数だけでは全体工期への影響を判断できない。
- イ：正しい。工期短縮効果を高めるには全体工期を左右する作業を優先する。
- ウ：誤り。余裕のある作業を短縮しても竣工日は早まらない場合がある。
- エ：誤り。工程上の影響で判断する。

総合解説：工期短縮効果を高めるには全体工期を左右する作業を優先する。。第二次検定では、条件・課題・判断根拠・具体策・確認結果を一貫して整理できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0035 6-2 工程・品質事例 > 工程遅延への対応 | 難易度：標準

問題：天井内の配管施工が電気工事との干渉で進まない。最も適切な工程回復策はどれか。

- ア．互いに相談せず先に施工した者を優先する。
- イ．配管を無断で設計位置から移動する。
- ウ．干渉箇所と優先施工範囲を関係者で整理し、施工図・区画・順序を調整して作業可能範囲を確保する。
- エ．全作業を停止したまま竣工まで待つ。

答え・解説 正答：ウ

- ア：誤り。現場混乱と手戻りが増える。
- イ：誤り。設計性能や承認条件へ影響する。
- ウ：正しい。他工種干渉は施工順序と納まりの調整で解消し、手戻りを防ぐ。
- エ：誤り。調整による回復可能性を放棄している。

総合解説：他工種干渉は施工順序と納まりの調整で解消し、手戻りを防ぐ。。第二次検定では、条件・課題・判断根拠・具体策・確認結果を一貫して整理できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0036 6-2 工程・品質事例 > 工程遅延への対応 | 難易度：標準

問題：工程遅延対策として作業員増員を検討する場合、最も適切な判断はどれか。

- ア．どの作業も人数を2倍にすれば工期が半分になる。
- イ．狭い機械室ほど無制限に人数を増やす。
- ウ．安全確保が難しくても工期優先で増員する。
- エ．作業スペース、技能者数、施工順序、安全性を確認し、増員で実際に生産性上がる作業へ適用する。

答え・解説 正答：エ

- ア：誤り。作業の分割可能性等により効果は異なる。
- イ：誤り。過密は能率低下や事故要因となる。
- ウ：誤り。工程短縮でも安全を犠牲にしない。
- エ：正しい。増員効果は作業条件に左右され、過密による生産性低下や安全リスクも考慮する。

総合解説：増員効果は作業条件に左右され、過密による生産性低下や安全リスクも考慮する。。第二次検定では、条件・課題・判断根拠・具体策・確認結果を一貫して整理できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0037 6-2 工程・品質事例 > 工程遅延への対応 | 難易度：標準

問題：空調機の納入遅延がある一方、機械室の配管・架台施工は可能である。最も適切な対応はどれか。

- ア．機器取合い寸法を確定し、後戻りが生じない範囲で配管・架台・保温等の先行可能作業を進める。
- イ．機器が来るまで現場全体を停止する。
- ウ．取合い寸法未確認のまま接続部まで完成させる。
- エ．完成寸法を想像して配管を固定する。

答え・解説 正答：ア

- ア：正しい。確定情報に基づき、手戻りのない範囲で先行施工することで遅延を吸収できる。
- イ：誤り。施工可能な作業を活用していない。
- ウ：誤り。取合い不一致による手戻りリスクが高い。
- エ：誤り。根拠のない寸法で施工してはならない。

総合解説：確定情報に基づき、手戻りのない範囲で先行施工することで遅延を吸収できる。。第二次検定では、条件・課題・判断根拠・具体策・確認結果を一貫して整理できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0038 6-2 工程・品質事例 > 工程遅延への対応 | 難易度：標準

問題：工期回復のため配管耐圧試験を省略して保温を先行したいという提案が出た。最も適切な判断はどれか。

- ア．工期回復を優先して試験を省略する。
- イ．必要な試験・確認を省略せず、工程組替えや試験班の調整など別の短縮策を検討する。
- ウ．保温後に漏れた場合だけ考える。
- エ．試験記録を実施したことにして作成する。

答え・解説 正答：イ

- ア：誤り。品質不良や大きな手戻りにつながる。
- イ：正しい。工程短縮を理由に要求された品質確認を省略してはならない。
- ウ：誤り。予防的な品質確認が必要である。
- エ：誤り。虚偽記録は不適切である。

総合解説：工程短縮を理由に要求された品質確認を省略してはならない。。第二次検定では、条件・課題・判断根拠・具体策・確認結果を一貫して整理できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0039 6-2 工程・品質事例 > 工程遅延への対応 | 難易度：標準

問題：遅延回復のため夜間に高所作業を追加する案が出た。最も適切な対応はどれか。

- ア．夜間なら人が少ないので安全対策は不要である。
- イ．残業時間が長くても本人が希望すれば制限なく作業させる。
- ウ．夜間作業の承諾条件、照明、監視、作業員の疲労、周辺影響を確認し、安全に実施できる場合に限って計画する。
- エ．照明が不足していても作業速度を落とせばよい。

答え・解説 正答：ウ

- ア：誤り。夜間特有の視認性低下等がある。
- イ：誤り。疲労・労務管理を考慮する。
- ウ：正しい。夜間作業は施工条件変更として安全・労務・周辺条件を確認する必要がある。
- エ：誤り。必要な視認性を確保する。

総合解説：夜間作業は施工条件変更として安全・労務・周辺条件を確認する必要がある。。第二次検定では、条件・課題・判断根拠・具体策・確認結果を一貫して整理できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0040 6-2 工程・品質事例 > 工程遅延への対応 | 難易度：標準

問題：施工途中で空調方式変更の指示があり、機器・ダクト・制御の再検討が必要になった。最も適切な工程管理はどれか。

- ア．変更内容が未確定でも従来図面で施工を続ける。
- イ．機器だけ変更しダクトや制御への影響は見ない。
- ウ．工程表は変更せず口頭連絡だけで対応する。
- エ．変更範囲と設計確定時期を確認し、調達・施工図・他工種への影響を工程へ反映して関係者と調整する。

答え・解説 正答：エ

- ア：誤り。手戻りの危険が大きい。
- イ：誤り。設備全体の整合を確認する必要がある。
- ウ：誤り。工程への反映と共有が必要である。
- エ：正しい。設計変更は複数工程へ連鎖するため、影響範囲を整理して工程を更新する。

総合解説：設計変更は複数工程へ連鎖するため、影響範囲を整理して工程を更新する。。第二次検定では、条件・課題・判断根拠・具体策・確認結果を一貫して整理できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0041 6-2 工程・品質事例 > 工程遅延への対応 | 難易度：標準

問題：工程回復策を実施した後の管理として、最も適切なものはどれか。

- ア．日々の実績と回復工程を比較し、遅延差が縮小しているか確認して、効果が不足すれば追加対策を行う。
- イ．対策を決めた時点で工程管理を終了する。
- ウ．竣工日にだけ進捗を確認する。
- エ．作業員の感覚だけで回復したと判断する。

答え・解説 正答：ア

- ア：正しい。回復策は実績で効果を確認し、必要に応じて修正する。
- イ：誤り。実施効果の確認が必要である。
- ウ：誤り。途中管理がなければ手遅れになる。
- エ：誤り。客観的な進捗確認が必要である。

総合解説：回復策は実績で効果を確認し、必要に応じて修正する。。第二次検定では、条件・課題・判断根拠・具体策・確認結果を一貫して整理できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0042 6-2 工程・品質事例 > 工程遅延への対応 | 難易度：応用

問題：作業班の進捗が遅れている。現場責任者の対応として最も適切なものはどれか。

- ア．担当者を叱責するだけで原因は調べない。
- イ．作業条件、待ち時間、資材供給、施工手順、技能などを確認し、遅延要因を除去した上で必要な指導を行う。
- ウ．遅延理由に関係なく全員を残業させる。
- エ．工程表を書き換えて遅延がなかったことにする。

答え・解説 正答：イ

- ア：誤り。原因が残れば再発する。
- イ：正しい。工程管理では事実に基づく原因分析と改善が重要である。
- ウ：誤り。原因に対応しない長時間労働は適切でない。
- エ：誤り。実態を隠すだけで改善にならない。

総合解説：工程管理では事実に基づく原因分析と改善が重要である。。第二次検定では、条件・課題・判断根拠・具体策・確認結果を一貫して整理できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0043 6-2 工程・品質事例 > 工程遅延への対応 | 難易度：応用

問題：冷凍機納入遅延、他工種との干渉、作業員不足が同時に発生している。最も適切な工程回復方針はどれか。

- ア．すべて残業だけで解決する。
- イ．最も目立つ遅延要因だけ対策し他は無視する。
- ウ．各要因の工期影響を分けて評価し、機器納入前の先行作業、他工種調整、重点作業への適正な人員再配置を組み合わせる。
- エ．工程表上の完成日だけ前倒して実作業は変えない。

答え・解説 正答：ウ

- ア：誤り。原因に応じた対策になっていない。
- イ：誤り。残った要因が全体工期を阻害する。
- ウ：正しい。複数原因にはそれぞれ有効な対策を組み合わせる必要がある。
- エ：誤り。表示変更だけでは工程は回復しない。

総合解説：複数原因にはそれぞれ有効な対策を組み合わせる必要がある。。第二次検定では、条件・課題・判断根拠・具体策・確認結果を一貫して整理できることが重要である。

0044 6-2 工程・品質事例 > 工程遅延への対応 | 難易度：応用

問題：竣工直前に試運転調整工程が遅れている。最も適切な対応はどれか。

- ア．試運転を省略して完成扱いにする。
- イ．未完配管があっても全設備を同時運転する。
- ウ．帳尻を合わせるため記録だけ先に作成する。
- エ．必要な試運転項目と前提条件を整理し、未完工事との干渉を排除して試運転に必要な時間を確保し、検査可能な状態まで工程を再構成する。

答え・解説 正答：エ

- ア：誤り。性能確認を省略できない。
- イ：誤り。未完状態での運転は危険・不適切である。
- ウ：誤り。実施していない記録を作成してはならない。
- エ：正しい。設備性能確認に必要な試運転工程を確保し、安全・品質を維持して回復する。

総合解説：設備性能確認に必要な試運転工程を確保し、安全・品質を維持して回復する。。第二次検定では、条件・課題・判断根拠・具体策・確認結果を一貫して整理できることが重要である。

0045 6-2 工程・品質事例 > 品質不良への対応 | 難易度：基礎

問題： 施工中に設計仕様と異なる配管材が使用されていることが判明した。最も適切な初動はどれか。

- ア．該当範囲を特定して施工・隠べいを停止し、影響を確認したうえで是正方法を決める。
- イ．一部だけなら記録せずそのまま使う。
- ウ．原因確認なしに他の作業を続ける。
- エ．見えなくなる前に急いで天井を閉じる。

答え・解説 正答：ア

- ア：正しい。不適合範囲を隔離し、拡大・隠べいを防いでから処置を決める。
- イ：誤り。仕様適合を確認する必要がある。
- ウ：誤り。不適合拡大の防止が必要である。
- エ：誤り。不適合を隠べいすることになる。

総合解説：不適合範囲を隔離し、拡大・隠べいを防いでから処置を決める。。第二次検定では、条件・課題・判断根拠・具体策・確認結果を一貫して整理できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0046 6-2 工程・品質事例 > 品質不良への対応 | 難易度：基礎

問題： 同種の漏水が複数箇所が発生した場合、原因分析として最も適切なものはどれか。

- ア．偶然として原因分析を行わない。
- イ．材料ロット、作業者、施工手順、工具、環境条件、検査記録など共通要因を比較して原因を絞り込む。
- ウ．漏れた箇所を修理すれば原因は不要である。
- エ．最初に漏れた作業員だけを原因と決める。

答え・解説 正答：イ

- ア：誤り。再発防止には原因分析が必要である。
- イ：正しい。複数不良では共通要因を分析し、再発防止につながる真因を特定する。
- ウ：誤り。局所修理だけでは再発する可能性がある。
- エ：誤り。個人以外の要因も確認する必要がある。

総合解説：複数不良では共通要因を分析し、再発防止につながる真因を特定する。。第二次検定では、条件・課題・判断根拠・具体策・確認結果を一貫して整理できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0047 6-2 工程・品質事例 > 品質不良への対応 | 難易度：基礎

問題：品質不良への対応について、最も適切な説明はどれか。

- ア．再発防止とは不良を隠すことである。
- イ．是正とは検査記録を書き換えることである。
- ウ．不良箇所の修理・交換は不適合への処置であり、原因を除去して同種不良を防ぐ仕組み改善は再発防止に相当する。
- エ．不良箇所を直せば原因分析は不要である。

答え・解説 正答：ウ

- ア：誤り。隠べいは管理ではない。
- イ：誤り。記録改ざんは是正ではない。
- ウ：正しい。現象への処置と、原因へ働きかける再発防止は区別して管理する。
- エ：誤り。原因が残ると再発する。

総合解説：現象への処置と、原因へ働きかける再発防止は区別して管理する。。第二次検定では、条件・課題・判断根拠・具体策・確認結果を一貫して整理できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0048 6-2 工程・品質事例 > 品質不良への対応 | 難易度：標準

問題：受入検査で仕様不適合となったポンプが現場倉庫にある。最も適切な管理はどれか。

- ア．現場が忙しい場合は一時的に使用する。
- イ．不適合表示を外して作業員に判断させる。
- ウ．合格品と混在保管する。
- エ．不適合品と明確に識別して使用可能品と分離し、交換・返却等の処置が完了するまで誤使用を防ぐ。

答え・解説 正答：エ

- ア：誤り。不適合品を安易に使用してはならない。
- イ：誤り。識別を明確にする必要がある。
- ウ：誤り。取り違えの危険がある。
- エ：正しい。不適合品の識別・隔離により誤使用を防止する。

総合解説：不適合品の識別・隔離により誤使用を防止する。。第二次検定では、条件・課題・判断根拠・具体策・確認結果を一貫して整理できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0049 6-2 工程・品質事例 > 品質不良への対応 | 難易度：標準

問題：ある階の保温厚さ不足が見つかり、同じ作業班が他階も施工していた。最も適切な対応はどれか。

- ア．同じ材料・作業班・施工期間など共通条件の範囲を抽出し、他階も重点的に確認する。
- イ．別階は見えないので問題なしとする。
- ウ．全建物を無条件に解体する。
- エ．発見箇所だけ直して他階は確認しない。

答え・解説 正答：ア

- ア：正しい。原因と共通条件から影響範囲を合理的に設定して確認する。
- イ：誤り。未確認で問題なしとは判断できない。
- ウ：誤り。必要範囲を分析せず過大な処置を行うのも不適切である。
- エ：誤り。同種不良が潜在する可能性がある。

総合解説：原因と共通条件から影響範囲を合理的に設定して確認する。。第二次検定では、条件・課題・判断根拠・具体策・確認結果を一貫して整理できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0050 6-2 工程・品質事例 > 品質不良への対応 | 難易度：標準

問題：漏水箇所を補修した後の品質確認として、最も適切なものはどれか。

- ア．作業者が大丈夫と言えば合格にする。
- イ．補修範囲と原因に応じて必要な耐圧・通水等の再試験を行い、基準適合を確認する。
- ウ．再試験せず保温・隠ぺいを進める。
- エ．補修した外観がきれいなら試験不要である。

答え・解説 正答：イ

- ア：誤り。客観的な確認が必要である。
- イ：正しい。処置後は品質要求を満足したことを再確認する。
- ウ：誤り。隠ぺい前に適合確認を行う。
- エ：誤り。外観だけで内部漏れを確認できない。

総合解説：処置後は品質要求を満足したことを再確認する。。第二次検定では、条件・課題・判断根拠・具体策・確認結果を一貫して整理できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0051 6-2 工程・品質事例 > 品質不良への対応 | 難易度：標準

問題：施工済み配管が当初図面と異なるが、施工前に正式な設計変更・承諾を受けていた。最も適切な品質判定はどれか。

- ア．現場作業員の記憶だけで合格とする。
- イ．変更承諾書は品質判定に使用しない。
- ウ．承認された変更後の設計図書を基準に適否を判断する。
- エ．当初図面と異なるため無条件に不良とする。

答え・解説 正答：ウ

- ア：誤り。客観的な設計図書が必要である。
- イ：誤り。変更記録は判定根拠となる。
- ウ：正しい。適用される最新の設計図書・承認内容を基準に判定する。
- エ：誤り。正式変更後は変更内容が基準となる。

総合解説：適用される最新の設計図書・承認内容を基準に判定する。。第二次検定では、条件・課題・判断根拠・具体策・確認結果を一貫して整理できることが重要である。

0052 6-2 工程・品質事例 > 品質不良への対応 | 難易度：標準

問題：隠ぺい直前に多数の配管支持間隔不良が発見され、是正すると天井閉鎖が遅れる。最も適切な対応はどれか。

- ア．支持金物の写真だけ撮って合格扱いにする。
- イ．工程遅延を避けるため検査記録を削除する。
- ウ．天井工程を優先して不良のまま隠ぺいする。
- エ．品質不良を是正して再確認したうえで、天井工程への影響を再調整し、品質を犠牲にしない回復策を検討する。

答え・解説 正答：エ

- ア：誤り。写真は適合性そのものを保証しない。
- イ：誤り。記録削除は不適切である。
- ウ：誤り。不適合を隠ぺいしてはならない。
- エ：正しい。品質適合を確保した上で工程調整を行う。

総合解説：品質適合を確保した上で工程調整を行う。。第二次検定では、条件・課題・判断根拠・具体策・確認結果を一貫して整理できることが重要である。

0053 6-2 工程・品質事例 > 品質不良への対応 | 難易度：応用

問題：設計図書の解釈に疑義があり、施工済み部分の適否を現場だけでは判断できない。最も適切な対応はどれか。

- ア．施工を必要範囲で止め、事実と記録を整理して監督職員等と協議し、判定根拠を明確にして処置する。
- イ．不利になりそうなので問題を報告しない。
- ウ．隠ぺいしてから協議する。
- エ．現場責任者の推測だけで合格とする。

答え・解説 正答：ア

- ア：正しい。疑義がある場合は関係者と協議し、設計図書との適合を明確に判断する。
- イ：誤り。問題を隠すと適正な施工管理ができない。
- ウ：誤り。確認できる状態で協議する。
- エ：誤り。根拠のない推測で品質判定しない。

総合解説：疑義がある場合は関係者と協議し、設計図書との適合を明確に判断する。。第二次検定では、条件・課題・判断根拠・具体策・確認結果を一貫して整理できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0054 6-2 工程・品質事例 > 品質不良への対応 | 難易度：応用

問題：同じ施工班が施工した50箇所の継手のうち3箇所で漏れが見つかった。最も適切な品質対応はどれか。

- ア．全50箇所を原因確認なしに廃棄する。
- イ．漏れ箇所を処置するとともに、施工手順・工具・技能・材料ロットを確認し、同条件の継手を追加点検して再発防止策を実施する。
- ウ．作業者名を変更して記録上の不良をなくす。
- エ．3箇所だけ修理し残り47箇所は無条件に合格とする。

答え・解説 正答：イ

- ア：誤り。原因分析なしの全交換は合理性を欠く。
- イ：正しい。個別処置、原因分析、影響範囲確認、再発防止を組み合わせる。
- ウ：誤り。記録操作は品質改善にならない。
- エ：誤り。同条件箇所の潜在不良を確認する必要がある。

総合解説：個別処置、原因分析、影響範囲確認、再発防止を組み合わせる。。第二次検定では、条件・課題・判断根拠・具体策・確認結果を一貫して整理できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0055 6-2 工程・品質事例 > 出来形判定 | 難易度：基礎

問題：出来形判定の基本として、最も適切なものはどれか。

- ア．作業者の感覚だけで判断する。
- イ．工期に間に合えば出来形は合格とする。
- ウ．設計図書や承認された施工図等の要求値と実測値を比較して適否を判断する。
- エ．材料費が予算内なら出来形も合格とする。

答え・解説 正答：ウ

- ア：誤り。客観的な測定が必要である。
- イ：誤り。工程と出来形適合は別である。
- ウ：正しい。出来形は要求された位置・寸法・勾配等と実測値を比較して判定する。
- エ：誤り。原価と出来形は別の管理項目である。

総合解説：出来形は要求された位置・寸法・勾配等と実測値を比較して判定する。。第二次検定では、条件・課題・判断根拠・具体策・確認結果を一貫して整理できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0056 6-2 工程・品質事例 > 出来形判定 | 難易度：基礎

問題：天井内配管の出来形確認時期として、最も適切なものはどれか。

- ア．天井閉鎖後に目視できなくなってから行う。
- イ．完成から数年後だけ測定する。
- ウ．施工前の図面だけで実測を省略する。
- エ．天井閉鎖前など、必要な位置・寸法・支持状態を確認できる段階で測定・記録する。

答え・解説 正答：エ

- ア：誤り。確認困難となる。
- イ：誤り。施工中の管理として遅すぎる。
- ウ：誤り。図面と実施工の一致を確認する必要がある。
- エ：正しい。後日確認困難になる部分は隠ぺい前に確認する。

総合解説：後日確認困難になる部分は隠ぺい前に確認する。。第二次検定では、条件・課題・判断根拠・具体策・確認結果を一貫して整理できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0057 6-2 工程・品質事例 > 出来形判定 | 難易度：標準

問題：配管勾配を複数点で測定したところ、一部だけ基準を外れていた。最も適切な対応はどれか。

- ア．外れ値の位置と原因を確認し、該当範囲を是正して再測定する。
- イ．平均値が基準内なら外れ点を無視する。
- ウ．最も良い測定値だけを記録する。
- エ．基準外の値を記録から削除する。

答え・解説 正答：ア

- ア：正しい。要求される各測定点の適合性を確認し、基準外は処置する。
- イ：誤り。局所不良を平均で隠してはならない。
- ウ：誤り。実測結果を選別しない。
- エ：誤り。記録を改ざんしてはならない。

総合解説：要求される各測定点の適合性を確認し、基準外は処置する。。第二次検定では、条件・課題・判断根拠・具体策・確認結果を一貫して整理できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0058 6-2 工程・品質事例 > 出来形判定 | 難易度：標準

問題：出来形測定でレーザー距離計を使用する場合、最も適切な管理はどれか。

- ア．機器が表示する数字は条件に関係なく必ず正しいとする。
- イ．測定対象・距離・反射条件などに適した方法を選び、測定機器の状態を確認して再現性のある測定を行う。
- ウ．測定基準点を毎回変えて比較する。
- エ．測定値が基準外なら別の場所を測って置き換える。

答え・解説 正答：イ

- ア：誤り。使用条件による誤差を考慮する。
- イ：正しい。測定方法と基準点を適切に設定し、信頼できる結果を得る必要がある。
- ウ：誤り。同一基準で比較する必要がある。
- エ：誤り。不都合な結果を置換してはならない。

総合解説：測定方法と基準点を適切に設定し、信頼できる結果を得る必要がある。。第二次検定では、条件・課題・判断根拠・具体策・確認結果を一貫して整理できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0059 6-2 工程・品質事例 > 出来形判定 | 難易度：標準

問題：配管の実測位置が承認施工図からずれているが、他設備との干渉はない。最も適切な判定はどれか。

- ア．干渉がなければ位置はどこでも合格である。
- イ．作業員が施工しやすい位置なら無条件に合格である。
- ウ．干渉の有無だけで合格とせず、設計図書・承認施工図の要求と許容範囲を確認して適否を判断する。
- エ．天井内なら位置管理は不要である。

答え・解説 正答：ウ

- ア：誤り。設計・保守・性能上の条件がある。
- イ：誤り。施工性だけで変更できない。
- ウ：正しい。出来形は要求位置との適合を確認する必要がある。
- エ：誤り。隠ぺい部でも出来形管理は必要である。

総合解説：出来形は要求位置との適合を確認する必要がある。。第二次検定では、条件・課題・判断根拠・具体策・確認結果を一貫して整理できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0060 6-2 工程・品質事例 > 出来形判定 | 難易度：標準

問題：配管支持間隔の出来形判定で、スケールが写っていない遠景写真しか残っていない。最も適切な対応はどれか。

- ア．写真に支持金物が写っているだけで基準内とする。
- イ．作業員の記憶で寸法を記録する。
- ウ．基準外でも写真があれば合格とする。
- エ．写真だけで寸法を断定せず、現物測定や他の記録で基準適合を確認し、必要なら追加記録を整備する。

答え・解説 正答：エ

- ア：誤り。寸法判定の根拠がない。
- イ：誤り。客観的記録が必要である。
- ウ：誤り。写真の存在と適合性は別である。
- エ：正しい。写真は測定根拠が読み取れる状態で活用し、不十分なら実測等で補う。

総合解説：写真は測定根拠が読み取れる状態で活用し、不十分なら実測等で補う。。第二次検定では、条件・課題・判断根拠・具体策・確認結果を一貫して整理できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0061 6-2 工程・品質事例 > 出来形判定 | 難易度：応用

問題：施工済み配管の高さが当初図面と異なるが、他工種調整により正式な承認を得て施工図を変更していた。最も適切な出来形判定はどれか。

- ア．承認済みの変更施工図を基準に実測値を確認して判定する。
- イ．当初図面と違うため必ず不合格とする。
- ウ．変更施工図は無視して作業者の記憶で判断する。
- エ．承認があっても出来形測定を省略する。

答え・解説 正答：ア

- ア：正しい。最新の承認図書を基準とし、実測による適合確認を行う。
- イ：誤り。正式変更を反映して判定する。
- ウ：誤り。客観的な図書を用いる。
- エ：誤り。変更後も出来形確認は必要である。

総合解説：最新の承認図書を基準とし、実測による適合確認を行う。。第二次検定では、条件・課題・判断根拠・具体策・確認結果を一貫して整理できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0062 6-2 工程・品質事例 > 出来形判定 | 難易度：応用

問題：排水管の勾配、支持間隔、接続位置を確認したところ、勾配のみ基準外だった。最も適切な対応はどれか。

- ア．3項目中2項目が合格なので全体を合格とする。
- イ．勾配不良の範囲と原因を確認して是正し、再測定で基準適合を確認したうえで、他の適合項目も記録として残す。
- ウ．勾配の実測値だけ記録から削除する。
- エ．支持間隔が良ければ排水性能も自動的に保証される。

答え・解説 正答：イ

- ア：誤り。重要項目の不適合を多数決で合格にできない。
- イ：正しい。各要求事項を個別に満たす必要があり、不適合項目は是正・再確認する。
- ウ：誤り。実測結果を改ざんしてはならない。
- エ：誤り。支持状態と排水勾配は別の品質特性である。

総合解説：各要求事項を個別に満たす必要があり、不適合項目は是正・再確認する。。第二次検定では、条件・課題・判断根拠・具体策・確認結果を一貫して整理できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0063 6-3 安全事例 > 災害原因分析 | 難易度：基礎

問題：労働災害の原因分析を始める際の対応として、最も適切なものはどれか。

- ア．現場を確認せず噂だけで原因を決める。
- イ．結果が重大なら原因調査を省略する。
- ウ．現場状況、作業手順、設備状態、関係者の証言、記録などの事実を整理し、事実と推測を分けて分析する。
- エ．最初に責任者を決め、その人を原因とする。

答え・解説 正答：ウ

- ア：誤り。客観的な現場情報が必要である。
- イ：誤り。重大災害ほど原因分析が重要である。
- ウ：正しい。再発防止につながる原因分析には、客観的事実の収集と整理が必要である。
- エ：誤り。責任追及を先にすると真因を見落とす。

総合解説：再発防止につながる原因分析には、客観的事実の収集と整理が必要である。。第二次検定では、条件・課題・判断根拠・具体策・確認結果を一貫して整理できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0064 6-3 安全事例 > 災害原因分析 | 難易度：基礎

問題：高所から作業員が墜落した事故の原因分析として、最も適切な考え方はどれか。

- ア．けがの程度だけを原因として記録する。
- イ．事故後に手すりを戻せば原因分析は不要とする。
- ウ．墜落した本人の不注意だけで分析を終了する。
- エ．手すり欠損などの直接要因だけでなく、点検不足、作業計画、教育、管理体制など背景要因も確認する。

答え・解説 正答：エ

- ア：誤り。結果は原因ではない。
- イ：誤り。復旧と原因分析は別に必要である。
- ウ：誤り。個人要因だけでは同種災害の根本原因を見落とす。
- エ：正しい。直接原因と管理的・組織的な背景要因を多角的に分析することで再発防止策を立てやすくなる。

総合解説：直接原因と管理的・組織的な背景要因を多角的に分析することで再発防止策を立てやすくなる。。第二次検定では、条件・課題・判断根拠・具体策・確認結果を一貫して整理できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0065 6-3 安全事例 > 災害原因分析 | 難易度：基礎

問題：配管切断作業で切創事故が発生した。原因分析として最も適切なものはどれか。

- ア．作業者の行動に加え、工具選定、固定方法、作業姿勢、手順、教育、保護具などを確認する。
- イ．けがをした手の左右だけを確認する。
- ウ．事故が1件だけなら原因は偶然とする。
- エ．作業者の性格だけを調べる。

答え・解説 正答：ア

- ア：正しい。災害は複数要因が関係することが多く、設備・作業・管理面を含めて分析する。
- イ：誤り。必要情報の一部にすぎない。
- ウ：誤り。単発でも予見可能な危険を分析する必要がある。
- エ：誤り。性格だけで技術的原因は把握できない。

総合解説：災害は複数要因が関係することが多く、設備・作業・管理面を含めて分析する。。第二次検定では、条件・課題・判断根拠・具体策・確認結果を一貫して整理できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0066 6-3 安全事例 > 災害原因分析 | 難易度：基礎

問題：災害原因を把握するための時系列整理として、最も適切なものはどれか。

- ア．最終結果だけを書き、事故前の変化は記録しない。
- イ．作業開始前の状態、作業変更、異常兆候、事故直前の行動、事故発生までを時間順に整理する。
- ウ．時系列は関係ないため関係者名だけ並べる。
- エ．事故後の救急搬送だけを記録する。

答え・解説 正答：イ

- ア：誤り。異常兆候や変更を見落とす。
- イ：正しい。時間順の整理により、事故へ至る変化や判断の分岐点を把握できる。
- ウ：誤り。原因の連鎖を把握できない。
- エ：誤り。事故前の状況が原因分析に重要である。

総合解説：時間順の整理により、事故へ至る変化や判断の分岐点を把握できる。。第二次検定では、条件・課題・判断根拠・具体策・確認結果を一貫して整理できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0067 6-3 安全事例 > 災害原因分析 | 難易度：標準

問題：通常は安全に行えていた作業で事故が発生した。事故当日は作業場所と使用工具が変更されていた。最も適切な分析はどれか。

- ア．事故者の年齢だけを原因候補にする。
- イ．工具変更の記録を削除して通常作業と同じ扱いにする。
- ウ．通常時との差分として場所・工具変更を重要な確認対象とし、変更時のリスク評価や周知の有無を調べる。
- エ．通常作業で事故がなかったので変更点は無関係とする。

答え・解説 正答：ウ

- ア：誤り。年齢だけで原因を説明できない。
- イ：誤り。事実を正確に残して分析する必要がある。
- ウ：正しい。事故前の変更は新たな危険を生じさせる可能性があり、重要な分析対象である。
- エ：誤り。変更が事故要因となった可能性がある。

総合解説：事故前の変更は新たな危険を生じさせる可能性があり、重要な分析対象である。。第二次検定では、条件・課題・判断根拠・具体策・確認結果を一貫して整理できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0068 6-3 安全事例 > 災害原因分析 | 難易度：標準

問題：吊り上げ作業中にワイヤロープが破断した。事故前に素線切れが確認されていたという証言がある。最も適切な分析はどれか。

- ア．ワイヤロープのメーカーだけを原因と決める。
- イ．素線切れの証言を記録しない。
- ウ．破断した時点だけを見て以前の兆候は無視する。
- エ．点検記録、交換基準、発見後の処置、使用継続の判断過程を確認し、管理上の不備を分析する。

答え・解説 正答：エ

- ア：誤り。材料・使用・点検の複数要因を確認する。
- イ：誤り。関係情報を保全して分析する。
- ウ：誤り。異常兆候は重要な原因情報である。
- エ：正しい。事故前の異常兆候と、その情報が管理上どう扱われたかを確認する必要がある。

総合解説：事故前の異常兆候と、その情報が管理上どう扱われたかを確認する必要がある。。第二次検定では、条件・課題・判断根拠・具体策・確認結果を一貫して整理できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0069 6-3 安全事例 > 災害原因分析 | 難易度：標準

問題：事故時、作業者が手順書と異なる方法で作業していた。最も適切な原因分析はどれか。

- ア．なぜ手順から逸脱したかを、手順の実行可能性、工程圧力、教育、監督、設備条件まで含めて確認する。
- イ．作業者を交代させれば原因は解決したとする。
- ウ．手順書の内容は一切確認しない。
- エ．手順違反の事実だけで分析を終了する。

答え・解説 正答：ア

- ア：正しい。逸脱の背景を確認しなければ、別の作業者でも同じ逸脱が再発する可能性がある。
- イ：誤り。個人交代だけでは仕組みの問題が残る。
- ウ：誤り。手順自体の妥当性も確認する。
- エ：誤り。行動の背景要因を確認する必要がある。

総合解説：逸脱の背景を確認しなければ、別の作業者でも同じ逸脱が再発する可能性がある。。第二次検定では、条件・課題・判断根拠・具体策・確認結果を一貫して整理できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0070 6-3 安全事例 > 災害原因分析 | 難易度：標準

問題：バルブ操作間違いにより高温水が噴出した。『作業者が間違えた』以外に確認すべき要因として最も適切なものはどれか。

- ア．事故当日の天気だけ。
- イ．バルブの識別表示、操作手順、系統図、ロックアウト、指差確認、監督方法など誤操作を防ぐ仕組み。
- ウ．会社の広告デザインだけ。
- エ．作業者の出身地だけ。

答え・解説 正答：イ

- ア：誤り。本件では主要な確認事項ではない。
- イ：正しい。人が誤る可能性を前提に、誤操作を防止・検出する仕組みを確認する。
- ウ：誤り。安全管理と関係しない。
- エ：誤り。誤操作との技術的因果関係が乏しい。

総合解説：人が誤る可能性を前提に、誤操作を防止・検出する仕組みを確認する。。第二次検定では、条件・課題・判断根拠・具体策・確認結果を一貫して整理できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0071 6-3 安全事例 > 災害原因分析 | 難易度：標準

問題：本災害の1週間前にも同じ場所で資材が落下しかけていたことが判明した。
最も適切な分析はどれか。

- ア．本災害だけを単独事象として扱う。
- イ．未遂事象の記録を破棄する。
- ウ．未遂事象が共有・是正されなかった理由を確認し、情報伝達・対策実施の仕組みまで原因として検討する。
- エ．負傷者がいなかった未遂事象は分析対象外とする。

答え・解説 正答：ウ

- ア：誤り。共通原因が存在する可能性がある。
- イ：誤り。再発防止に必要な情報を失う。
- ウ：正しい。先行するヒヤリ・ハットは予兆であり、なぜ対策へつながらなかったかが重要である。
- エ：誤り。未遂事象は重大災害予防に有用な情報である。

総合解説：先行するヒヤリ・ハットは予兆であり、なぜ対策へつながらなかったかが重要である。。第二次検定では、条件・課題・判断根拠・具体策・確認結果を一貫して整理できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0072 6-3 安全事例 > 災害原因分析 | 難易度：標準

問題：墜落災害で、手すりが一時撤去され、復旧確認がなく、作業者への周知もされていなかった。最も適切な原因分析はどれか。

- ア．作業者が墜落した事実だけを原因とする。
- イ．事故後に手すりを戻したので原因分析は不要とする。
- ウ．手すりを外した1人だけを唯一の原因とする。
- エ．手すり撤去という直接危険に加え、復旧確認手順、変更管理、情報共有の欠落が連鎖したと捉える。

答え・解説 正答：エ

- ア：誤り。結果と原因を混同している。
- イ：誤り。復旧だけでは再発防止にならない。
- ウ：誤り。管理システム上の要因を見落とす。
- エ：正しい。複数の防護層が機能しなかった連鎖として分析すると、再発防止策を具体化できる。

総合解説：複数の防護層が機能しなかった連鎖として分析すると、再発防止策を具体化できる。。第二次検定では、条件・課題・判断根拠・具体策・確認結果を一貫して整理できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0073 6-3 安全事例 > 災害原因分析 | 難易度：応用

問題：重大な機械事故が発生し、現場には破損した工具・設備が残っている。原因調査のため最も適切な対応はどれか。

- ア．救護と二次災害防止を優先したうえで、必要な範囲で現場状況・設備・記録を保全し、事実確認に使えるようにする。
- イ．写真を撮らず設備状態を元に戻す。
- ウ．関係者の記録を事故後に書き換える。
- エ．原因調査前にすべて廃棄して現場を片付ける。

答え・解説 正答：ア

- ア：正しい。安全確保後、原因分析に必要な事実情報を保全することが重要である。
- イ：誤り。事故時の状態を確認できなくなる。
- ウ：誤り。客観性を損なう。
- エ：誤り。重要な原因情報を失う。

総合解説：安全確保後、原因分析に必要な事実情報を保全することが重要である。。第二次検定では、条件・課題・判断根拠・具体策・確認結果を一貫して整理できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0074 6-3 安全事例 > 災害原因分析 | 難易度：応用

問題：フォークリフトと歩行者の接触事故で、死角、狭い通路、誘導員不在、繁忙時間帯の混在作業が確認された。最も適切な分析はどれか。

- ア．歩行者がいたこと自体を原因とする。
- イ．車両特性、通路設計、動線分離、誘導体制、作業時間調整など複数の要因を関連付けて分析する。
- ウ．繁忙時間帯であることは工程上の問題なので安全分析から除外する。
- エ．運転者の前方不注意だけで終了する。

答え・解説 正答：イ

- ア：誤り。歩行者が安全に通行できる管理が必要である。
- イ：正しい。接触事故は人・機械・環境・管理の複数要因から分析する必要がある。
- ウ：誤り。混在条件は安全リスクに影響する。
- エ：誤り。死角や通路等の背景要因を見落とす。

総合解説：接触事故は人・機械・環境・管理の複数要因から分析する必要がある。。第二次検定では、条件・課題・判断根拠・具体策・確認結果を一貫して整理できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0075 6-3 安全事例 > 再発防止 | 難易度：基礎

問題：災害の再発防止策を立案する際の基本として、最も適切なものはどれか。

- ア．原因を確認せず全員へ注意メールだけ送る。
- イ．対策は事故者本人だけに適用する。
- ウ．原因分析で特定した直接要因・背景要因に対応する具体的な対策を設定する。
- エ．事故の種類に関係なく毎回同じ標語を掲示する。

答え・解説 正答：ウ

- ア：誤り。原因に適合した措置が必要である。
- イ：誤り。仕組み上の原因は他の作業者にも影響する。
- ウ：正しい。原因と対策が対応してこそ再発可能性を下げられる。
- エ：誤り。標語だけでは原因除去にならない場合が多い。

総合解説：原因と対策が対応してこそ再発可能性を下げられる。。第二次検定では、条件・課題・判断根拠・具体策・確認結果を一貫して整理できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0076 6-3 安全事例 > 再発防止 | 難易度：基礎

問題：回転部への巻き込まれ事故の再発防止として、最も有効性が高い対策はどれか。

- ア．事故者だけを別作業へ異動する。
- イ．作業速度を上げて危険部付近の滞在時間を短くする。
- ウ．『触らないこと』という注意書きだけ貼る。
- エ．危険部へ接触できないよう適切なガード・インターロック等を設け、必要な作業手順と教育を併用する。

答え・解説 正答：エ

- ア：誤り。別の作業者で再発する可能性がある。
- イ：誤り。速度上昇は危険を増す可能性がある。
- ウ：誤り。注意だけでは誤接触を防げない。
- エ：正しい。危険源への接触を物理的に防止する工学的対策を優先し、管理対策を重ねる。

総合解説：危険源への接触を物理的に防止する工学的対策を優先し、管理対策を重ねる。。第二次検定では、条件・課題・判断根拠・具体策・確認結果を一貫して整理できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0077 6-3 安全事例 > 再発防止 | 難易度：基礎

問題：バルブ誤操作事故の再発防止策として、最も適切なものはどれか。

- ア．系統表示・バルブ識別を改善し、操作前確認と必要なロックアウト手順を標準化する。
- イ．識別表示をすべて外す。
- ウ．系統図を廃止して経験だけで操作させる。
- エ．作業者に『次は間違えないように』とだけ伝える。

答え・解説 正答：ア

- ア：正しい。誤操作を起こしにくくする識別と確認手順を仕組み化する。
- イ：誤り。誤操作リスクが増える。
- ウ：誤り。標準化された情報を用いる必要がある。
- エ：誤り。個人注意だけでは再発しやすい。

総合解説：誤操作を起こしにくくする識別と確認手順を仕組み化する。。第二次検定では、条件・課題・判断根拠・具体策・確認結果を一貫して整理できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0078 6-3 安全事例 > 再発防止 | 難易度：標準

問題：ある作業班で配管切断時の飛散物事故が起きた。再発防止教育として最も適切なものはどれか。

- ア．教育資料を配布するだけで理解確認しない。
- イ．事故班だけでなく同種作業を行う関係者へ原因・新手順・保護措置を周知し、理解と実施状況を確認する。
- ウ．別現場では同じ作業でも周知しない。
- エ．事故者本人だけに教育する。

答え・解説 正答：イ

- ア：誤り。配布だけで実行されるとは限らない。
- イ：正しい。同種作業へ横展開し、理解・実施まで確認することが重要である。
- ウ：誤り。類似リスクがある範囲へ展開する。
- エ：誤り。仕組み上の原因なら他の作業者にも関係する。

総合解説：同種作業へ横展開し、理解・実施まで確認することが重要である。。第二次検定では、条件・課題・判断根拠・具体策・確認結果を一貫して整理できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0079 6-3 安全事例 > 再発防止 | 難易度：標準

問題：災害後に新しい作業手順を導入した。再発防止管理として、最も適切なものはどれか。

- ア．事故が再発するまで効果を確認しない。
- イ．現場で守れない手順でも変更しない。
- ウ．現場巡視や作業観察で新手順が守られているか確認し、不具合があれば手順や教育を見直す。
- エ．手順書を配布した時点で再発防止完了とする。

答え・解説 正答：ウ

- ア：誤り。予防的な効果確認が必要である。
- イ：誤り。実行可能性を検証し見直す。
- ウ：正しい。再発防止策は実施状況と効果を確認し、継続的に改善する。
- エ：誤り。書面配布だけでは定着を確認できない。

総合解説：再発防止策は実施状況と効果を確認し、継続的に改善する。。第二次検定では、条件・課題・判断根拠・具体策・確認結果を一貫して整理できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0080 6-3 安全事例 > 再発防止 | 難易度：標準

問題：設備変更後に事故が起き、変更時のリスク評価がされていなかった。再発防止として最も適切なものはどれか。

- ア．今後の変更は口頭だけで行う。
- イ．変更情報を管理者だけが知るようにする。
- ウ．今回の設備だけ元に戻して制度は変えない。
- エ．設備・材料・作業方法を変更する際に、事前のリスク評価と関係者周知を必須とする変更管理手順を設ける。

答え・解説 正答：エ

- ア：誤り。記録・評価・周知が必要である。
- イ：誤り。作業者等へ必要情報を伝える。
- ウ：誤り。同じ管理不備が別の変更で再発する。
- エ：正しい。個別復旧だけでなく変更時に危険を見落とさない仕組みを構築する。

総合解説：個別復旧だけでなく変更時に危険を見落とさない仕組みを構築する。。第二次検定では、条件・課題・判断根拠・具体策・確認結果を一貫して整理できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0081 6-3 安全事例 > 再発防止 | 難易度：標準

問題：事故前に複数のヒヤリ・ハットが報告されていたが対策されていなかった。
最も適切な再発防止策はどれか。

- ア．ヒヤリ・ハットを収集・評価し、重大リスクは担当・期限を決めて是正し、完了確認する仕組みを整える。
- イ．負傷事故だけを扱い未遂は無視する。
- ウ．報告書を保管するだけで対策状況は管理しない。
- エ．報告件数を減らすためヒヤリ・ハット報告を禁止する。

答え・解説 正答：ア

- ア：正しい。予兆情報を実際のリスク低減へつなげる管理プロセスが必要である。
- イ：誤り。未遂事象も災害予防に有効である。
- ウ：誤り。対策完了までフォローする必要がある。
- エ：誤り。重要な予防情報を失う。

総合解説：予兆情報を実際のリスク低減へつなげる管理プロセスが必要である。。第二次検定では、条件・課題・判断根拠・具体策・確認結果を一貫して整理できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0082 6-3 安全事例 > 再発防止 | 難易度：標準

問題：墜落事故の再発防止策として、最も適切な組合せはどれか。

- ア．保護帽の交換だけ。
- イ．手すり等の設備改善、作業前点検、変更時の復旧確認、教育・監督を組み合わせる。
- ウ．現場入口に安全標語を追加するだけ。
- エ．事故者への注意だけ。

答え・解説 正答：イ

- ア：誤り。保護帽は墜落防止の主要対策ではない。
- イ：正しい。複数の防護層を構築することで、一つの失敗が災害へ直結する可能性を下げる。
- ウ：誤り。標語だけでは危険源を低減できない。
- エ：誤り。設備・管理上の原因が残る。

総合解説：複数の防護層を構築することで、一つの失敗が災害へ直結する可能性を下げる。。第二次検定では、条件・課題・判断根拠・具体策・確認結果を一貫して整理できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0083 6-3 安全事例 > 再発防止 | 難易度：応用

問題：ある現場でクレーン作業の合図不統一による接触事故が発生した。全社的な再発防止として最も適切なものはどれか。

- ア．クレーン作業をしていない部署にも同じ詳細手順を無条件で強制し、対象リスクは確認しない。
- イ．事故の内容を隠して標語だけ変更する。
- ウ．事故原因と改善した合図・指揮ルールを同種揚重作業のある他現場へ展開し、適用状況を確認する。
- エ．事故現場だけで対策し、他現場には知らせない。

答え・解説 正答：ウ

- ア：誤り。リスクに応じた適用範囲を設定する。
- イ：誤り。原因と対策を共有しなければ学習できない。
- ウ：正しい。類似リスクがある範囲へ適切に水平展開し、実施状況を確認する。
- エ：誤り。同じ仕組みの不備が他現場にある可能性がある。

総合解説：類似リスクがある範囲へ適切に水平展開し、実施状況を確認する。。第二次検定では、条件・課題・判断根拠・具体策・確認結果を一貫して整理できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0084 6-3 安全事例 > 再発防止 | 難易度：応用

問題：配管搬入時の接触事故で、狭い通路、死角、誘導員不在、作業時間の混雑が原因と分析された。最も適切な再発防止策はどれか。

- ア．歩行者にだけヘルメットを着用させる。
- イ．事故車両を別の車両に交換するだけ。
- ウ．運転者に注意するよう伝えるだけ。
- エ．搬入経路を見直し、歩車分離・誘導員配置・時間帯分離・事前打合せを実施し、実施状況を巡視で確認する。

答え・解説 正答：エ

- ア：誤り。接触自体を防ぐ対策ではない。
- イ：誤り。車両を替えても管理条件が同じなら再発し得る。
- ウ：誤り。通路・死角・混在の原因が残る。
- エ：正しい。分析された複数要因に対応した設備・管理・運用対策を組み合わせている。

総合解説：分析された複数要因に対応した設備・管理・運用対策を組み合わせている。。第二次検定では、条件・課題・判断根拠・具体策・確認結果を一貫して整理できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0085 6-3 安全事例 > 現場是正指示 | 難易度：基礎

問題：足場の手すりが外れた状態で作業を始めようとしている。現場責任者の是正指示として最も適切なものはどれか。

- ア．当該箇所の作業を停止し、手すりを復旧して安全確認が完了するまで使用させない。
- イ．注意して作業するよう指示して続行する。
- ウ．短時間ならそのまま使用させる。
- エ．作業終了後に復旧するよう伝える。

答え・解説 正答：ア

- ア：正しい。重大な墜落リスクがあるため、まず危険状態を除去してから再開する。
- イ：誤り。注意だけでは墜落を防げない。
- ウ：誤り。短時間でも重大災害につながる。
- エ：誤り。作業前に是正する必要がある。

総合解説：重大な墜落リスクがあるため、まず危険状態を除去してから再開する。。第二次検定では、条件・課題・判断根拠・具体策・確認結果を一貫して整理できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0086 6-3 安全事例 > 現場是正指示 | 難易度：基礎

問題：吊り荷の真下を作業員が通行している状態でクレーン作業が続いている。最も適切な是正指示はどれか。

- ア．作業員に早く通るよう指示する。
- イ．吊り作業を一旦停止し、危険区域を明確にして立入禁止・誘導を徹底してから再開する。
- ウ．保護帽を確認して吊り作業を続ける。
- エ．吊り荷を高く上げれば通行させてもよい。

答え・解説 正答：イ

- ア：誤り。危険区域への曝露を認めている。
- イ：正しい。吊り荷下への立入りをなくし、作業区域を管理する必要がある。
- ウ：誤り。保護帽で吊り荷の危険は除去できない。
- エ：誤り。吊り荷高さを上げても落下リスクは残る。

総合解説：吊り荷下への立入りをなくし、作業区域を管理する必要がある。。第二次検定では、条件・課題・判断根拠・具体策・確認結果を一貫して整理できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0087 6-3 安全事例 > 現場是正指示 | 難易度：基礎

問題：現場は正指示の出し方として、最も適切なものはどれか。

- ア．『安全にやること』だけ伝える。
- イ．誰が直すか決めず全員へ任せる。
- ウ．危険箇所、停止すべき作業、必要な是正内容、責任者、再開条件を具体的に示す。
- エ．再開条件を決めず作業員の判断に任せる。

答え・解説 正答：ウ

- ア：誤り。抽象的で実行内容が不明確である。
- イ：誤り。責任の所在が不明確になる。
- ウ：正しい。具体的な是正内容と責任・確認条件を明確にすると確実な改善につながる。
- エ：誤り。安全確認前に再開するおそれがある。

総合解説：具体的な是正内容と責任・確認条件を明確にすると確実な改善につながる。。第二次検定では、条件・課題・判断根拠・具体策・確認結果を一貫して整理できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0088 6-3 安全事例 > 現場是正指示 | 難易度：標準

問題：危険箇所の是正が完了したとの報告を受けた後、最も適切な対応はどれか。

- ア．報告を聞いただけで確認せず再開させる。
- イ．翌日まで誰にも知らせず放置する。
- ウ．是正記録を作らず口頭だけで完了とする。
- エ．現場では是正状態を確認し、必要な関係者へ周知したうえで再開を許可する。

答え・解説 正答：エ

- ア：誤り。実際の安全状態を確認する必要がある。
- イ：誤り。再開判断と情報共有が必要である。
- ウ：誤り。重要な是正は記録管理も必要である。
- エ：正しい。是正の実施確認と関係者への周知を行ってから再開する。

総合解説：是正の実施確認と関係者への周知を行ってから再開する。。第二次検定では、条件・課題・判断根拠・具体策・確認結果を一貫して整理できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0089 6-3 安全事例 > 現場是正指示 | 難易度：標準

問題：同じ作業班で保護具未使用が繰り返されている。最も適切な対応はどれか。

- ア．作業を止めて必要な保護具を使用させるとともに、未使用の理由を確認し、教育・装備・監督方法を見直す。
- イ．毎回口頭注意だけで作業を続ける。
- ウ．未使用者だけを叱責し保護具の適合性は確認しない。
- エ．保護具を使わなくても事故がなければ問題なしとする。

答え・解説 正答：ア

- ア：正しい。即時是正と背景原因への対策を組み合わせる。
- イ：誤り。反復しているため管理方法の見直しが必要である。
- ウ：誤り。装備や手順に問題がないかも確認する。
- エ：誤り。事故がないことは安全を保証しない。

総合解説：即時是正と背景原因への対策を組み合わせる。。第二次検定では、条件・課題・判断根拠・具体策・確認結果を一貫して整理できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0090 6-3 安全事例 > 現場是正指示 | 難易度：標準

問題：固定不良の配管があり、品質基準外であるだけでなく落下のおそれもある。最も適切な是正指示はどれか。

- ア．品質記録だけ修正し現物はそのままにする。
- イ．周囲を立入禁止として落下リスクを除き、支持方法を設計要求に適合するよう是正し、再確認する。
- ウ．落下しなければ品質基準外でも使用する。
- エ．支持不良部分の下で作業を継続させる。

答え・解説 正答：イ

- ア：誤り。現物の危険と不適合が残る。
- イ：正しい。安全確保を直ちに行い、品質不適合も同時に是正する。
- ウ：誤り。品質要求も満たす必要がある。
- エ：誤り。二次災害の危険がある。

総合解説：安全確保を直ちに行い、品質不適合も同時に是正する。。第二次検定では、条件・課題・判断根拠・具体策・確認結果を一貫して整理できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0091 6-3 安全事例 > 現場是正指示 | 難易度：標準

問題：施工計画では歩行者と搬入車両を時間分離する予定だったが、現場では同時通行が行われている。最も適切な是正指示はどれか。

- ア．現場が慣れてきたので同時通行を認める。
- イ．歩行者だけに注意を求める。
- ウ．計画どおり時間分離を再設定し、必要な誘導・表示を追加して、関係者へ運用方法を再周知する。
- エ．計画書を実態に合わせて安全対策なしで変更する。

答え・解説 正答：ウ

- ア：誤り。慣れは接触リスクをなくさない。
- イ：誤り。車両側を含めた管理が必要である。
- ウ：正しい。計画と実態の不一致を是正し、安全条件を回復する。
- エ：誤り。危険な実態を追認してはならない。

総合解説：計画と実態の不一致を是正し、安全条件を回復する。。第二次検定では、条件・課題・判断根拠・具体策・確認結果を一貫して整理できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0092 6-3 安全事例 > 現場是正指示 | 難易度：応用

問題：巡視で、開口部無養生、吊り荷下立入り、通路への資材放置が同時に見つかった。最も適切な是正対応はどれか。

- ア．通路の片付けだけ行い高所・吊り荷作業は続ける。
- イ．すべて作業終了後にまとめて是正する。
- ウ．最も簡単に直せるものから行い重大度は考えない。
- エ．重大な墜落・吊り荷リスクの作業を直ちに停止・隔離し、通路障害も除去して、各是正の完了確認後に再開する。

答え・解説 正答：エ

- ア：誤り。重大リスクが放置される。
- イ：誤り。危険状態で作業を続けてはならない。
- ウ：誤り。リスクの重大度を考慮して優先する。
- エ：正しい。重大災害につながる危険を優先して即時停止・是正し、他の不備も確実に改善する。

総合解説：重大災害につながる危険を優先して即時停止・是正し、他の不備も確実に改善する。。第二次検定では、条件・課題・判断根拠・具体策・確認結果を一貫して整理できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0093 6-4 法規事例 > 技術者配置 | 難易度：基礎

問題：特定建設業者A社が民間の管工事を元請として受注し、下請契約総額が5,300万円となった。現場に置く技術者として、原則最も適切なものはどれか。

- ア．監理技術者を配置する。
- イ．営業所技術者だけを現場に置く。
- ウ．主任技術者だけを配置する。
- エ．現場代理人だけを配置する。

答え・解説 正答：ア

ア：正しい。建築工事業以外では、元請の下請契約総額が5,000万円以上となる場合、監理技術者の配置要件に該当する。
イ：誤り。営業所技術者と工事現場の監理技術者は役割が異なる。
ウ：誤り。5,000万円以上の下請契約総額となる元請工事では監理技術者が必要である。
エ：誤り。現場代理人は建設業法上の監理技術者を代替しない。

総合解説：建築工事業以外では、元請の下請契約総額が5,000万円以上となる場合、監理技術者の配置要件に該当する。。実地・総合判断では、単一の知識だけでなく、適用条件・関係者・工程・品質・安全への影響を整理して判断することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0094 6-4 法規事例 > 技術者配置 | 難易度：基礎

問題：管工事業の許可を受けた下請業者B社が、元請から請負った配管工事を施工する。B社が当該工事をさらに大規模に下請けさせる要件には該当しない。この場合の技術者配置として最も適切なものはどれか。

- ア．B社は必ず監理技術者を置く。
- イ．B社は原則として主任技術者を工事現場に置く。
- ウ．B社は下請なので技術者配置は不要である。
- エ．元請の監理技術者がいればB社の技術者は不要である。

答え・解説 正答：イ

ア：誤り。監理技術者は一定の元請工事で必要となる。
イ：正しい。建設業者は元請・下請を問わず、原則として請け負った工事現場に主任技術者を置く。
ウ：誤り。下請建設業者にも原則として主任技術者の配置が必要である。
エ：誤り。元請の監理技術者が各下請会社の主任技術者を代替する制度ではない。

総合解説：建設業者は元請・下請を問わず、原則として請け負った工事現場に主任技術者を置く。。実地・総合判断では、単一の知識だけでなく、適用条件・関係者・工程・品質・安全への影響を整理して判断することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0095 6-4 法規事例 > 技術者配置 | 難易度：基礎

問題：公共性のある施設の管工事を請負代金4,700万円で施工する。専任特例を利用しない場合、主任技術者又は監理技術者の配置として最も適切なものはどれか。

- ア．建築一式工事の9,000万円基準を当てはめ、4,700万円なら非専任とする。
- イ．4,700万円を4,500万円未満と誤認し、非専任でよいとする。
- ウ．建築一式以外の専任基準4,500万円以上に該当するため、原則として工事現場ごとに専任とする。
- エ．特定建設業の5,000万円基準と混同し、5,000万円未満なら非専任とする。

答え・解説 正答：ウ

- ア：誤り。9,000万円は建築一式工事に関する専任基準である。
- イ：誤り。4,700万円は4,500万円以上である。
- ウ：正しい。建築一式工事以外では、公共性のある施設等の工事で請負代金4,500万円以上が専任の基準である。
- エ：誤り。5,000万円は特定建設業等の下請金額基準である。

総合解説：建築一式工事以外では、公共性のある施設等の工事で請負代金4,500万円以上が専任の基準である。。実地・総合判断では、単一の知識だけでなく、適用条件・関係者・工程・品質・安全への影響を整理して判断することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0096 6-4 法規事例 > 技術者配置 | 難易度：標準

問題：現場代理人を常駐させていることを理由に、主任技術者を配置しない方針が示された。建設業法上の判断として最も適切なものはどれか。

- ア．現場代理人を2名置けば監理技術者も不要になる。
- イ．現場代理人がいれば主任技術者は常に不要である。
- ウ．現場代理人と主任技術者は法律上完全に同一の制度である。
- エ．現場代理人の配置だけでは主任技術者・監理技術者の配置義務を代替できない。

答え・解説 正答：エ

- ア：誤り。人数で技術者配置義務を代替できない。
- イ：誤り。必要な技術者は別途配置する。
- ウ：誤り。役割と根拠が異なる。
- エ：正しい。現場代理人は契約上の現場代表者であり、建設業法上の主任技術者・監理技術者とは別の制度である。

総合解説：現場代理人は契約上の現場代表者であり、建設業法上の主任技術者・監理技術者とは別の制度である。。実地・総合判断では、単一の知識だけでなく、適用条件・関係者・工程・品質・安全への影響を整理して判断することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0097 6-4 法規事例 > 技術者配置 | 難易度：標準

問題：一般建設業の管工事業者C社が、発注者から直接受注した工事で下請契約総額5,200万円を予定している。最も適切な対応はどれか。

- ア．当該下請契約を締結するには原則として特定建設業許可が必要で、現場には監理技術者を配置する。
- イ．下請契約を複数社に分割すれば総額を考慮しなくてよい。
- ウ．一般建設業許可のまま主任技術者だけ置けばよい。
- エ．下請業者が全て許可業者ならC社の許可区分は問わない。

答え・解説 正答：ア

- ア：正しい。管工事では下請契約総額5,000万円以上となる元請は特定建設業許可と監理技術者配置が必要となる。
- イ：誤り。複数下請の合計額で判定する。
- ウ：誤り。一般建設業許可の範囲を超える。
- エ：誤り。元請側の特定建設業要件は下請先の許可だけで消えない。

総合解説：管工事では下請契約総額5,000万円以上となる元請は特定建設業許可と監理技術者配置が必要となる。。実地・総合判断では、単一の知識だけでなく、適用条件・関係者・工程・品質・安全への影響を整理して判断することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0098 6-4 法規事例 > 技術者配置 | 難易度：標準

問題：専任が必要な監理技術者について、ICTを使えば複数現場を無条件で兼務できるという提案があった。最も適切な判断はどれか。

- ア．発注者や現場条件は一切確認しなくてよい。
- イ．専任規制の特例には請負金額、現場数、連絡体制、ICT活用等の要件があるため、全要件を確認して適用可否を判断する。
- ウ．ICTを一つ導入すれば金額や現場数に関係なく兼務できる。
- エ．監理技術者本人が了承すれば無条件で兼務できる。

答え・解説 正答：イ

- ア：誤り。適用条件を総合的に確認する必要がある。
- イ：正しい。ICT活用は特例要件の一部であり、他の法定要件を満たす必要がある。
- ウ：誤り。ICTだけで無制限な兼務が認められるわけではない。
- エ：誤り。本人同意だけでは法定要件を満たさない。

総合解説：ICT活用は特例要件の一部であり、他の法定要件を満たす必要がある。。実地・総合判断では、単一の知識だけでなく、適用条件・関係者・工程・品質・安全への影響を整理して判断することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0099 6-4 法規事例 > 技術者配置 | 難易度：標準

問題：主任技術者として届出された者が、工事内容を把握せず月1回だけ現場へ来る運用となっている。最も適切な判断はどれか。

- ア．資格証を会社が保管していれば職務遂行は不要である。
- イ．氏名が書類に載っていれば実際の職務は不要である。
- ウ．施工計画、工程・品質等の技術上の管理や指導監督を実質的に行える体制へ是正する。
- エ．現場代理人がいるので主任技術者は工事内容を知らなくてよい。

答え・解説 正答：ウ

- ア：誤り。資格保有と職務遂行は別の要件である。
- イ：誤り。名義上の配置だけでは適切でない。
- ウ：正しい。主任技術者等は名義だけでなく、工事の技術上の管理・指導監督を実際に行う必要がある。
- エ：誤り。主任技術者自身の法定職務がある。

総合解説：主任技術者等は名義だけでなく、工事の技術上の管理・指導監督を実際に行う必要がある。。実地・総合判断では、単一の知識だけでなく、適用条件・関係者・工程・品質・安全への影響を整理して判断することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0100 6-4 法規事例 > 技術者配置 | 難易度：標準

問題：民間の管工事で、請負代金6,000万円、下請契約総額4,800万円である。公共性のある施設等に該当し、専任特例は使わない。最も適切な技術者配置はどれか。

- ア．主任技術者は配置するが、請負代金に関係なく必ず非専任でよい。
- イ．下請総額が5,000万円未満なので技術者は不要である。
- ウ．監理技術者を必ず配置する。
- エ．主任技術者を配置し、請負代金が4,500万円以上なので原則専任とする。

答え・解説 正答：エ

- ア：誤り。専任対象となる工事では原則専任である。
- イ：誤り。建設業者として原則主任技術者が必要である。
- ウ：誤り。監理技術者要件は下請総額5,000万円以上である。
- エ：正しい。下請総額は5,000万円未満なので監理技術者要件には達しない一方、請負代金6,000万円は専任基準以上である。

総合解説：下請総額は5,000万円未満なので監理技術者要件には達しない一方、請負代金6,000万円は専任基準以上である。。実地・総合判断では、単一の知識だけでなく、適用条件・関係者・工程・品質・安全への影響を整理して判断することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0101 6-4 法規事例 > 技術者配置 | 難易度：応用

問題：長期工事の途中でやむを得ず主任技術者を交代することになった。施工管理上最も適切な対応はどれか。

- ア．法令・契約上必要な手続きを確認し、施工状況、未解決事項、品質・安全記録等を確実に引き継いで管理の継続性を確保する。
- イ．交代を現場関係者へ知らせない。
- ウ．氏名だけ変更し、工事内容の引継ぎは行わない。
- エ．前任者の記録を廃棄して新任者が最初から判断する。

答え・解説 正答：ア

- ア：正しい。技術者交代では法的手続と技術管理の継続性の双方を確保する必要がある。
- イ：誤り。指揮・連絡体制を関係者へ周知する必要がある。
- ウ：誤り。管理上の空白が生じる。
- エ：誤り。過去の施工記録は重要な管理情報である。

総合解説：技術者交代では法的手続と技術管理の継続性の双方を確保する必要がある。。実地・総合判断では、単一の知識だけでなく、適用条件・関係者・工程・品質・安全への影響を整理して判断することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0102 6-4 法規事例 > 技術者配置 | 難易度：応用

問題：現場監査で、監理技術者が必要な元請工事なのに主任技術者しか配置されず、その主任技術者も別の専任対象現場へ常駐していることが判明した。最も適切な対応はどれか。

- ア．工事完成後に書類だけ修正する。
- イ．作業体制を見直し、当該工事の許可・下請金額・専任要件に適合する監理技術者配置を確保してから施工体制を是正する。
- ウ．主任技術者の名札を監理技術者書き換える。
- エ．現場代理人を追加すれば技術者配置の不備は解消する。

答え・解説 正答：イ

- ア：誤り。施工中に適正な体制を確保する必要がある。
- イ：正しい。許可区分、監理技術者要件、専任要件を実態に合わせて是正する必要がある。
- ウ：誤り。資格・配置要件を満たす実態が必要である。
- エ：誤り。現場代理人では代替できない。

総合解説：許可区分、監理技術者要件、専任要件を実態に合わせて是正する必要がある。。実地・総合判断では、単一の知識だけでなく、適用条件・関係者・工程・品質・安全への影響を整理して判断することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0103 6-4 法規事例 > 施工体制 | 難易度：基礎

問題：民間の管工事で、特定建設業者が元請として下請契約総額5,100万円で施工する。施工体制台帳について最も適切なものはどれか。

- ア．下請総額が8,000万円未満なので作成不要である。
- イ．民間工事では施工体制台帳制度は適用されない。
- ウ．施工体制台帳を作成し、施工体系図を工事関係者が見やすい場所に掲示する。
- エ．主任技術者を置けば施工体制台帳は不要である。

答え・解説 正答：ウ

- ア：誤り。8,000万円は建築一式工事側の基準である。
- イ：誤り。民間工事にも作成要件がある。
- ウ：正しい。建築一式以外の民間工事では、特定建設業者が下請総額5,000万円以上となった時点で作成義務が生じる。
- エ：誤り。技術者配置と施工体制台帳は別の義務である。

総合解説：建築一式以外の民間工事では、特定建設業者が下請総額5,000万円以上となった時点で作成義務が生じる。。実地・総合判断では、単一の知識だけでなく、適用条件・関係者・工程・品質・安全への影響を整理して判断することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0104 6-4 法規事例 > 施工体制 | 難易度：基礎

問題：公共の管工事で、元請が下請契約を1件だけ300万円で締結した。施工体制台帳について最も適切なものはどれか。

- ア．5,000万円未満なので作成不要である。
- イ．300万円未満でなければ作成不要である。
- ウ．公共工事では施工体制台帳を作成してはならない。
- エ．下請契約を締結した時点で、金額にかかわらず施工体制台帳等を作成する。

答え・解説 正答：エ

- ア：誤り。5,000万円基準は民間工事の一定の場合に用いる。
- イ：誤り。そのような300万円基準はない。
- ウ：誤り。公共工事こそ施工体制把握が求められる。
- エ：正しい。公共工事では下請契約を締結した元請は金額にかかわらず施工体制台帳等を作成する。

総合解説：公共工事では下請契約を締結した元請は金額にかかわらず施工体制台帳等を作成する。。実地・総合判断では、単一の知識だけでなく、適用条件・関係者・工程・品質・安全への影響を整理して判断することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0105 6-4 法規事例 > 施工体制 | 難易度：基礎

問題：公共工事の施工体系図の掲示について、最も適切なものはどれか。

- ア．工事関係者が見やすい場所に加え、公衆が見やすい場所にも掲示する。
- イ．会社本店の金庫内だけに保管する。
- ウ．下請会社の事務所だけに掲示する。
- エ．公共工事では施工体系図を掲示しない。

答え・解説 正答：ア

- ア：正しい。公共工事では工事関係者と公衆の双方が見やすい場所への掲示が求められる。
- イ：誤り。現場で施工体制を確認できない。
- ウ：誤り。元請現場の施工体制を示す必要がある。
- エ：誤り。掲示義務がある。

総合解説：公共工事では工事関係者と公衆の双方が見やすい場所への掲示が求められる。。実地・総合判断では、単一の知識だけでなく、適用条件・関係者・工程・品質・安全への影響を整理して判断することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0106 6-4 法規事例 > 施工体制 | 難易度：標準

問題：施工途中で新たな二次下請業者が追加された。施工体制台帳作成対象の工事で、最も適切な対応はどれか。

- ア．当初作成済みなので追加業者は記載しない。
- イ．再下請負通知等に基づいて施工体制台帳・施工体系図を更新し、現場の実際の施工体制と一致させる。
- ウ．工事完成後にまとめて追加する。
- エ．口頭で知っていれば書類更新は不要である。

答え・解説 正答：イ

- ア：誤り。実態と書類が不一致になる。
- イ：正しい。施工体制が変わった場合は台帳・体系図を適時更新する。
- ウ：誤り。施工中に体制を把握できる状態にする必要がある。
- エ：誤り。法定書類へ反映する。

総合解説：施工体制が変わった場合は台帳・体系図を適時更新する。。実地・総合判断では、単一の知識だけでなく、適用条件・関係者・工程・品質・安全への影響を整理して判断することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0107 6-4 法規事例 > 施工体制 | 難易度：標準

問題：元請が、配管材料の納入だけを行う商社と、配管取付工事を請け負う会社の両方と契約した。施工体制台帳上の建設工事の下請業者として原則対象となるのはどれか。

- ア．材料を納入するだけの商社だけ。
- イ．両者とも建設工事を請け負う下請業者として必ず同じ扱いとなる。
- ウ．配管取付工事を請け負う会社。
- エ．どちらも対象にならない。

答え・解説 正答：ウ

- ア：誤り。単なる資材納入は通常、建設工事の請負ではない。
- イ：誤り。契約の実態により区別する。
- ウ：正しい。建設工事の完成を請け負う業者が施工体制台帳上の建設工事下請として扱われる。
- エ：誤り。配管取付工事の請負会社は対象となる。

総合解説：建設工事の完成を請け負う業者が施工体制台帳上の建設工事下請として扱われる。。実地・総合判断では、単一の知識だけでなく、適用条件・関係者・工程・品質・安全への影響を整理して判断することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0108 6-4 法規事例 > 施工体制 | 難易度：標準

問題：元請が工事の施工計画・工程・品質・安全管理にほとんど関与せず、受注工事をそのまま一社の下請へ任せている。最も適切な判断はどれか。

- ア．元請名義の請負契約書があれば必ず適法である。
- イ．監理技術者の名前だけ掲示すれば問題ない。
- ウ．下請会社が優良なら一括下請負規制は適用されない。
- エ．一括下請負に該当するおそれがあるため、元請の実質的関与を含め施工体制を確認・是正する。

答え・解説 正答：エ

- ア：誤り。契約書の形式だけでは判断しない。
- イ：誤り。名義上の配置だけでは実質的関与を示せない。
- ウ：誤り。下請の能力だけで禁止が解除されるわけではない。
- エ：正しい。形式ではなく、元請が施工に実質的に関与しているかなど実態が重要である。

総合解説：形式ではなく、元請が施工に実質的に関与しているかなど実態が重要である。。実地・総合判断では、単一の知識だけでなく、適用条件・関係者・工程・品質・安全への影響を整理して判断することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0109 6-4 法規事例 > 施工体制 | 難易度：標準

問題：多数の下請業者が出入りする現場で、施工体制と実際の入場者が一致しているか確認する方法として最も適切なものはどれか。

- ア．施工体制台帳・施工体系図・作業員名簿等を照合し、所属、資格、役割を確認する。
- イ．ヘルメットの色だけで所属を判断する。
- ウ．作業員本人の記憶だけで確認する。
- エ．入場者数だけ数え、所属や資格は確認しない。

答え・解説 正答：ア

- ア：正しい。複数の施工体制情報を照合することで実態把握と資格確認ができる。
- イ：誤り。色だけでは正式な所属確認にならない。
- ウ：誤り。客観的な記録が必要である。
- エ：誤り。人数だけでは適正な施工体制を確認できない。

総合解説：複数の施工体制情報を照合することで実態把握と資格確認ができる。。実地・総合判断では、単一の知識だけでなく、適用条件・関係者・工程・品質・安全への影響を整理して判断することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0110 6-4 法規事例 > 施工体制 | 難易度：応用

問題：施工体系図にはA社の主任技術者がX氏と記載されているが、実際にはY氏が常時技術指導しておりX氏は工事に関与していない。最も適切な対応はどれか。

- ア．書類上X氏なら実態は問わない。
- イ．実際の配置・資格・職務を確認し、法令に適合する体制へ是正するとともに施工体系図等を実態に合わせて更新する。
- ウ．Y氏の資格を確認せず氏名だけ書き換える。
- エ．施工体系図を外して問題を見えなくする。

答え・解説 正答：イ

- ア：誤り。実質的な配置が必要である。
- イ：正しい。施工体制書類と現場実態の双方が法令に適合し、一致している必要がある。
- ウ：誤り。資格・役割の確認が必要である。
- エ：誤り。揭示義務を回避することはできない。

総合解説：施工体制書類と現場実態の双方が法令に適合し、一致している必要がある。。実地・総合判断では、単一の知識だけでなく、適用条件・関係者・工程・品質・安全への影響を整理して判断することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0111 6-4 法規事例 > 施工体制 | 難易度：応用

問題：公共工事で、下請契約があるのに施工体制台帳がなく、施工体系図也未掲示、再下請業者の技術者も不明である。最も適切な対応はどれか。

- ア．下請金額が小さければ全て不要とする。
- イ．元請の現場代理人だけ分かれば施工体制は十分とする。
- ウ．施工を適切に管理できるよう下請関係・技術者を確認し、施工体制台帳と施工体系図を整備・掲示して実態を把握する。
- エ．完成後に書類だけ作成する。

答え・解説 正答：ウ

- ア：誤り。公共工事では金額下限によらない。
- イ：誤り。下請関係や技術者配置も把握する必要がある。
- ウ：正しい。公共工事では下請契約があれば金額にかかわらず施工体制台帳等を整備し、現場実態を管理する。
- エ：誤り。施工中の体制管理に使用する書類である。

総合解説：公共工事では下請契約があれば金額にかかわらず施工体制台帳等を整備し、現場実態を管理する。。実地・総合判断では、単一の知識だけでなく、適用条件・関係者・工程・品質・安全への影響を整理して判断することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0112 6-4 法規事例 > 手続・届出 | 難易度：基礎

問題：公道上に作業帯を設けて配管工事を行う場合の道路使用許可について、申請先として最も適切なものはどれか。

- ア．道路管理者だけ。
- イ．消防署長だけ。
- ウ．都道府県知事だけ。
- エ．所轄警察署長。

答え・解説 正答：エ

- ア：誤り。道路管理者が扱う道路占用許可とは別制度である。
- イ：誤り。道路使用許可の許可権者ではない。
- ウ：誤り。道路使用許可は所轄警察署長が扱う。
- エ：正しい。道路において工事・作業を行う行為は道路交通法77条の道路使用許可対象となり、所轄警察署長へ申請する。

総合解説：道路において工事・作業を行う行為は道路交通法77条の道路使用許可対象となり、所轄警察署長へ申請する。。実地・総合判断では、単一の知識だけでなく、適用条件・関係者・工程・品質・安全への影響を整理して判断することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0113 6-4 法規事例 > 手続・届出 | 難易度：基礎

問題：道路の地下に給水管を継続して埋設し道路を占用する場合、道路法上の道路占用許可の相手方として最も適切なものはどれか。

- ア．道路管理者。
- イ．所轄警察署長だけ。
- ウ．労働基準監督署長。
- エ．消防署長。

答え・解説 正答：ア

- ア：正しい。道路法32条の道路占用許可は道路管理者が扱う。
- イ：誤り。警察署長の道路使用許可とは別制度である。
- ウ：誤り。道路占用許可を扱う機関ではない。
- エ：誤り。道路占用許可権者ではない。

総合解説：道路法32条の道路占用許可は道路管理者が扱う。。実地・総合判断では、単一の知識だけでなく、適用条件・関係者・工程・品質・安全への影響を整理して判断することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0114 6-4 法規事例 > 手続・届出 | 難易度：基礎

問題：道路地下へ新設管を恒久的に埋設するため、工事期間中は車線規制を伴う掘削作業を行う。最も適切な手続判断はどれか。

- ア．道路占用許可だけあれば車線規制の道路使用許可は常に不要である。
- イ．道路占用許可と道路使用許可の双方が必要となる場合があるため、道路管理者と所轄警察署の手続きを確認する。
- ウ．道路使用許可だけあれば恒久的な占用許可は不要である。
- エ．二つの許可制度は完全に同一なので一つだけ申請する。

答え・解説 正答：イ

- ア：誤り。交通規制を伴う工事・作業は道路使用許可の確認が必要である。
- イ：正しい。恒久的な占用と交通への特別使用は根拠法・許可権者が異なり、両方必要となる場合がある。
- ウ：誤り。恒久的な占用は道路法上の許可が必要となる。
- エ：誤り。道路法と道路交通法の別制度である。

総合解説：恒久的な占用と交通への特別使用は根拠法・許可権者が異なり、両方必要となる場合がある。。実地・総合判断では、単一の知識だけでなく、適用条件・関係者・工程・品質・安全への影響を整理して判断することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0115 6-4 法規事例 > 手続・届出 | 難易度：標準

問題：指定地域内で騒音規制法または振動規制法の特定建設作業を行う計画である。原則的な届出時期として最も適切なものはどれか。

- ア．作業終了後7日以内。
- イ．作業開始当日の終了後。
- ウ．作業開始日の7日前までに所定の届出を行う。
- エ．苦情が出た場合だけ。

答え・解説 正答：ウ

- ア：誤り。事後届出ではない。
- イ：誤り。事前手続が必要である。
- ウ：正しい。指定地域内の特定建設作業は原則として開始7日前までの事前届出が必要である。
- エ：誤り。苦情発生の有無で届出義務を判断しない。

総合解説：指定地域内の特定建設作業は原則として開始7日前までの事前届出が必要である。。実地・総合判断では、単一の知識だけでなく、適用条件・関係者・工程・品質・安全への影響を整理して判断することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0116 6-4 法規事例 > 手続・届出 | 難易度：標準

問題：既存建築物の機械設備改修で、天井・壁の解体を伴う。施工前の石綿対応として最も適切なものはどれか。

- ア．解体後に廃材を見て石綿の有無を判断する。
- イ．配管工事なので建材の石綿は一切確認しない。
- ウ．請負金額にかかわらず事前調査自体が不要である。
- エ．元請業者等が法令に基づく事前調査を行い、報告対象に該当する場合は所定の報告を行ってから適切な飛散防止措置へつなげる。

答え・解説 正答：エ

- ア：誤り。着手前の事前調査が必要である。
- イ：誤り。設備改修でも建材を解体する場合は確認対象となる。
- ウ：誤り。報告基準と事前調査義務を混同している。
- エ：正しい。解体・改造・補修を伴う工事では石綿含有の有無を事前に調査する。

総合解説：解体・改造・補修を伴う工事では石綿含有の有無を事前に調査する。。実地・総合判断では、単一の知識だけでなく、適用条件・関係者・工程・品質・安全への影響を整理して判断することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0117 6-4 法規事例 > 手続・届出 | 難易度：標準

問題：河川区域内の土地に仮設配管支持用の工作物を設置する計画である。河川法上、主に確認すべき許可として最も適切なものはどれか。

- ア．河川区域内に工作物を新築等する行為に関する許可。
- イ．道路交通法の駐車許可だけ。
- ウ．建設業許可の更新だけ。
- エ．労災保険の年度更新だけ。

答え・解説 正答：ア

- ア：正しい。河川区域内で工作物を新築・改築・除却する場合は河川法26条の許可対象となり得る。
- イ：誤り。河川区域内工作物の法的確認にならない。
- ウ：誤り。建設業許可とは別の土地利用規制である。
- エ：誤り。河川工作物の許可とは無関係である。

総合解説：河川区域内で工作物を新築・改築・除却する場合は河川法26条の許可対象となり得る。。実地・総合判断では、単一の知識だけでなく、適用条件・関係者・工程・品質・安全への影響を整理して判断することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0118 6-4 法規事例 > 手続・届出 | 難易度：標準

問題：道路使用許可では夜間工事のみとされていたが、工程都合で昼間施工へ変更したい。最も適切な対応はどれか。

- ア．施工者判断で昼間工事へ変更する。
- イ．許可条件との整合を確認し、必要な変更申請・協議を行ってから施工条件を変更する。
- ウ．誘導員がいれば許可条件を無視できる。
- エ．一度許可を受ければ期間・時間・範囲を自由に変更できる。

答え・解説 正答：イ

- ア：誤り。許可条件に従う必要がある。
- イ：正しい。許可を受けた条件を変更する場合は、必要な手続・協議を確認する必要がある。
- ウ：誤り。誘導員配置は許可条件変更手続の代替ではない。
- エ：誤り。許可内容の範囲内で行う必要がある。

総合解説：許可を受けた条件を変更する場合は、必要な手続・協議を確認する必要がある。。実地・総合判断では、単一の知識だけでなく、適用条件・関係者・工程・品質・安全への影響を整理して判断することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0119 6-4 法規事例 > 手続・届出 | 難易度：応用

問題：市街地の既存建築物改修で、道路上作業、特定建設作業、石綿事前調査結果の報告対象工事が重なる。最も適切な施工前管理はどれか。

- ア．最も早い届出一つだけ行えば他は不要である。
- イ．工事開始後に不足手続を確認する。
- ウ．各制度の根拠法、提出先、提出主体、期限を一覧化し、施工工程より前に必要な許可・届出が完了するよう管理する。
- エ．すべて同じ行政機関へ同じ様式で申請する。

答え・解説 正答：ウ

- ア：誤り。各法令は独立して適用される場合がある。
- イ：誤り。事前許可・届出は着手前に完了させる。
- ウ：正しい。複数法令の手続は個別に要件が異なるため、工程と関連付けて漏れなく管理する。
- エ：誤り。提出先・様式・期限は制度ごとに異なる。

総合解説：複数法令の手続は個別に要件が異なるため、工程と関連付けて漏れなく管理する。。実地・総合判断では、単一の知識だけでなく、適用条件・関係者・工程・品質・安全への影響を整理して判断することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0120 6-4 法規事例 > 手続・届出 | 難易度：応用

問題：翌日から公道上の掘削を予定しているが、道路使用許可の申請が未完了で、道路占用許可の要否も確認されていない。最も適切な現場判断はどれか。

- ア．予定日を優先して着工し、後日申請する。
- イ．交通誘導員を増やせば許可は不要になる。
- ウ．工事時間を短くすれば無許可でよい。
- エ．公道上作業を開始せず、占用・使用の要否と必要な許可条件を確認し、手続完了後に工程を再設定する。

答え・解説 正答：エ

- ア：誤り。事後申請を前提に着工してはならない。
- イ：誤り。安全措置と法的許可は別である。
- ウ：誤り。短時間でも許可対象行為は手続が必要である。
- エ：正しい。必要な行政手続が未完了なら、法令適合を確認してから施工する必要がある。

総合解説：必要な行政手続が未完了なら、法令適合を確認してから施工する必要がある。。実地・総合判断では、単一の知識だけでなく、適用条件・関係者・工程・品質・安全への影響を整理して判断することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0121 6-5 複合問題 > 図表読解 | 難易度：基礎

問題：次の工程状況を読む。
【作業】A：機器基礎 予定完了10日 / 実績10日
B：機器搬入 A完了後開始・所要3日 / 搬入予定が2日遅延
C：機器接続 B完了後開始・所要4日
D：天井内配管 Aと並行施工・所要8日 / 予定どおり
竣工工程への影響を最小化するため、最も優先して検討すべき対応はどれか。

- ア．Bの搬入遅延がCへ直結するため、搬入時期短縮やCの準備作業前倒しなどB-Cシステムの回復策を検討する。
- イ．Dが予定どおりでもDだけを増員する。
- ウ．Aは完了済みだが基礎工事をやり直す。
- エ．全作業を同じ日数だけ短縮する。

答え・解説 正答：ア

ア：正しい。Bの遅れが後続Cへ連続して影響するため、そのシステムの回復策が全体工期に有効である。
イ：誤り。予定どおりのDを短縮してもB-Cの遅れを直接解消しない。
ウ：誤り。完了済みで問題のないAをやり直す必要はない。
エ：誤り。工期影響のある作業を優先すべきである。

総合解説：Bの遅れが後続Cへ連続して影響するため、そのシステムの回復策が全体工期に有効である。。実地・総合判断では、単一の知識だけでなく、適用条件・関係者・工程・品質・安全への影響を整理して判断することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0122 6-5 複合問題 > 図表読解 | 難易度：基礎

問題：排水管勾配の測定結果が次のとおりで、設計要求は「1/100以上」である。
【区間】P1：1/90、P2：1/105、P3：1/100、P4：1/95
最も適切な品質判断はどれか。

- ア．P1だけが不適合である。
- イ．P2は要求勾配を満たしていないため、該当区間を確認・是正して再測定する。
- ウ．P3は1/100なので必ず不適合である。
- エ．4区間の平均が良ければ全区間を合格とする。

答え・解説 正答：イ

ア：誤り。1/90は1/100より急な勾配で要求を満たす。
イ：正しい。1/100以上の勾配では、1/105は1/100より緩く要求を満たさない。
ウ：誤り。1/100は要求値そのものである。
エ：誤り。各区間の適合を確認し、平均で局所不良を隠さない。

総合解説：1/100以上の勾配では、1/105は1/100より緩く要求を満たさない。。実地・総合判断では、単一の知識だけでなく、適用条件・関係者・工程・品質・安全への影響を整理して判断することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0123 6-5 複合問題 > 図表読解 | 難易度：基礎

問題：機器重量とクレーン条件は次のとおりである。

【機器重量】3.2t

【吊具重量】0.4t

【計画作業半径でのクレーン定格荷重】3.5t

この計画の判断として最も適切なものはどれか。

ア．機器本体3.2tだけ見れば定格内なのでそのまま吊る。

イ．吊具重量は定格荷重の判定に含めない。

ウ．吊り上げる総荷重は3.6tとなり定格荷重3.5tを超えるため、クレーン能力・作業半径等を見直す。

エ．0.1t程度の超過なら短時間なので認める。

答え・解説 正答：ウ

ア：誤り。吊具重量も考慮する。

イ：誤り。実際にクレーンへ作用する荷重として考慮する。

ウ：正しい。吊具等を含めた実際の吊り荷条件が定格荷重を超えており、計画変更が必要である。

エ：誤り。定格荷重を超える使用は認められない。

総合解説：吊具等を含めた実際の吊り荷条件が定格荷重を超えており、計画変更が必要である。。実地・総合判断では、単一の知識だけでなく、適用条件・関係者・工程・品質・安全への影響を整理して判断することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0124 6-5 複合問題 > 図表読解 | 難易度：標準

問題：民間管工事の施工体制が次のとおりである。

【元請】特定建設業者A

【一次下請】B：2,800万円、C：1,500万円

【二次下請】D：900万円（Bから）

この工事の施工体制台帳の作成要否に関する判断として、最も適切なものはどれか。

ア．BからDへの二次下請900万円もAの下請契約額へ加算し5,200万円とするので、必ず作成義務が生じる。

イ．二次下請が存在するだけで、民間工事では金額に関係なく必ず施工体制台帳を作成する。

ウ．資材納入や警備など建設工事以外の契約もすべて下請金額へ合算して判定する。

エ．Aが直接締結した建設工事の一次下請契約は合計4,300万円で5,000万円未満なので、民間工事の金額要件だけでは施工体制台帳の作成義務は生じない。

答え・解説 正答：エ

ア：誤り。二次下請契約はAが直接締結した下請契約ではなく、作成要否の5,000万円判定へそのまま加算しない。

イ：誤り。民間工事では一定の金額要件がある。なお、作成義務が生じた後の台帳には孫請等も記載対象となる。

ウ：誤り。単なる資材納入、測量、警備等の建設工事に該当しない契約は判定対象に含めない。

エ：正しい。民間工事の作成要否の金額判定は、元請が直接締結した建設工事の一次下請契約の合計で判断する。本例は2,800万円 + 1,500万円 = 4,300万円である。

総合解説：民間工事の作成要否の金額判定は、元請が直接締結した建設工事の一次下請契約の合計で判断する。本例は2,800万円 + 1,500万円 = 4,300万円である。。実地・総合判断では、単一の知識だけでなく、適用条件・関係者・工程・品質・安全への影響を整理して判断することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0125 6-5 複合問題 > 図表読解 | 難易度：標準

問題：次のリスク評価結果を読む。
【作業A】切創：重篤度2、可能性4
【作業B】吊り荷落下：重篤度5、可能性2
【作業C】軽度のつまずき：重篤度1、可能性4
数値を単純に掛けた評価値を参考にしつつ、重大災害防止の観点から最も適切な対応はどれか。

- ア．作業Bは発生可能性がAより低くても重篤度が極めて高いため、吊り荷下立入禁止等の重大リスク対策を優先して確実に実施する。
- イ．可能性だけが最も高い作業A以外は対策しない。
- ウ．評価値の小さい作業は永久に対策不要とする。
- エ．重篤度は考えず、発生回数だけで優先順位を決める。

答え・解説 正答：ア

- ア：正しい。リスク評価は数値だけを機械的に扱わず、死亡等につながる高重篤リスクを確実に低減する。
- イ：誤り。重大な結果をもたらす危険を無視できない。
- ウ：誤り。リスクは状況に応じ継続管理する。
- エ：誤り。重篤度も重要な評価要素である。

総合解説：リスク評価は数値だけを機械的に扱わず、死亡等につながる高重篤リスクを確実に低減する。。実地・総合判断では、単一の知識だけでなく、適用条件・関係者・工程・品質・安全への影響を整理して判断することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0126 6-5 複合問題 > 図表読解 | 難易度：標準

問題：給水配管の耐圧試験結果は次のとおりである。
【系統A】合格
【系統B】継手1箇所で漏れ
【系統C】合格
B系統を補修した後の対応として最も適切なものはどれか。

- ア．A・Cが合格なのでBも平均的に合格とする。
- イ．B系統について補修内容と影響範囲に応じた再試験を行い、適合確認後に次工程へ進む。
- ウ．漏れ箇所を拭き取れば再試験は不要である。
- エ．Bの結果を記録から削除して全系統合格とする。

答え・解説 正答：イ

- ア：誤り。系統ごとに適合を確認する。
- イ：正しい。不適合を補修した後は該当系統の品質を再確認する必要がある。
- ウ：誤り。補修後の性能確認が必要である。
- エ：誤り。実測結果を改ざんしてはならない。

総合解説：不適合を補修した後は該当系統の品質を再確認する必要がある。。実地・総合判断では、単一の知識だけでなく、適用条件・関係者・工程・品質・安全への影響を整理して判断することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0127 6-5 複合問題 > 図表読解 | 難易度：標準

問題：隠ぺい前の記録一覧が次のとおりである。

- 配管全景写真
- 支持金物写真
- 保温施工写真
- 天井閉鎖後の完成写真

支持間隔の寸法を後日確認できる記録が必要な場合、最も適切な改善はどれか。

- ア．全景写真があれば寸法は推測できるので追加不要である。
- イ．天井閉鎖後の写真だけ増やす。
- ウ．支持間隔が判読できるよう、測定基準やスケールを写した写真・測定記録を隠ぺい前に追加する。
- エ．作業者の記憶を写真記録の代わりにする。

答え・解説 正答：ウ

- ア：誤り。遠景だけでは寸法判定の根拠が不足する。
- イ：誤り。閉鎖後は支持間隔を確認できない。
- ウ：正しい。写真で出来形寸法を確認するには、測定位置と寸法が判読できる記録が必要である。
- エ：誤り。客観的記録にならない。

総合解説：写真で出来形寸法を確認するには、測定位置と寸法が判読できる記録が必要である。。実地・総合判断では、単一の知識だけでなく、適用条件・関係者・工程・品質・安全への影響を整理して判断することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0128 6-5 複合問題 > 図表読解 | 難易度：標準

問題：翌週開始予定の工事手続状況は次のとおりである。

- 【道路使用許可】許可済
- 【道路占用許可】必要性確認中
- 【特定建設作業届】対象、未提出
- 【石綿事前調査】完了

最も適切な工程判断はどれか。

- ア．道路使用許可があるので他の手続はすべて不要である。
- イ．石綿調査が終わっているので全工種を予定どおり開始する。
- ウ．届出は施工後にまとめて行う。
- エ．未完了の占用許可要否と特定建設作業届の期限を確認し、必要な手続が整うまで該当作業の着手日を調整する。

答え・解説 正答：エ

- ア：誤り。道路使用許可は他法令手続を代替しない。
- イ：誤り。石綿調査だけで他の許可・届出は充足しない。
- ウ：誤り。事前届出が必要な制度がある。
- エ：正しい。各制度は独立して要件があるため、未完了手続に該当する作業は着手前に整える。

総合解説：各制度は独立して要件があるため、未完了手続に該当する作業は着手前に整える。。実地・総合判断では、単一の知識だけでなく、適用条件・関係者・工程・品質・安全への影響を整理して判断することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0129 6-5 複合問題 > 図表読解 | 難易度：標準

問題：機械室の作業計画は次のとおりである。
【作業面積】約30㎡
【配管班】8名
【電気班】6名
【保温班】5名
【搬入車両】随時進入
最も適切な施工管理判断はどれか。

- ア．作業空間に対して人員・車両が過密となるおそれがあるため、作業時間・区域・搬入を分離して配置を見直す。
- イ．人数が多いほど必ず生産性が上がるので同時作業を続ける。
- ウ．全員に保護帽があれば過密作業でも問題ない。
- エ．作業面積は工程・安全に影響しない。

答え・解説 正答：ア

- ア：正しい。狭い空間で多業種・車両が混在すると接触・手待ち・品質低下が生じるため配置調整が必要である。
- イ：誤り。過密は生産性を下げる場合がある。
- ウ：誤り。保護具だけでは混在リスクを除去できない。
- エ：誤り。作業空間は施工性・安全性に直接影響する。

総合解説：狭い空間で多業種・車両が混在すると接触・手待ち・品質低下が生じるため配置調整が必要である。。実地・総合判断では、単一の知識だけでなく、適用条件・関係者・工程・品質・安全への影響を整理して判断することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0130 6-5 複合問題 > 図表読解 | 難易度：応用

問題：主要機器の納入状況は次のとおりである。
【ポンプ】予定どおり
【空調機】3日遅延見込み
【冷凍機】納期末確定
【制御盤】予定より2日早い
最も適切な工程管理はどれか。

- ア．最も早く届く制御盤だけを重点管理し他は待つ。
- イ．納期末確定の冷凍機を最優先で確定させ、空調機遅延の後続影響を確認し、先行可能作業と制御盤早着を活用して工程を再調整する。
- ウ．全機器が揃うまですべての施工を停止する。
- エ．納期末確定の冷凍機は工程表から削除する。

答え・解説 正答：イ

- ア：誤り。早着品より未確定品の方が工程リスクが大きい。
- イ：正しい。不確実性と後続影響の大きい項目を優先し、先行可能な作業でリスクを吸収する。
- ウ：誤り。可能な先行作業を活用できる。
- エ：誤り。必要機器を工程管理から除外してはならない。

総合解説：不確実性と後続影響の大きい項目を優先し、先行可能な作業でリスクを吸収する。。実地・総合判断では、単一の知識だけでなく、適用条件・関係者・工程・品質・安全への影響を整理して判断することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0131 6-5 複合問題 > 図表読解 | 難易度：応用

問題：1か月の不適合件数は次のとおりである。

【配管接合漏れ】8件

【支持間隔】2件

【保温厚不足】1件

【機器ラベル】1件

最も適切な改善活動はどれか。

ア．件数の少ないラベル不良だけを重点対策する。

イ．接合漏れは件数が多いので正常とみなす。

ウ．接合漏れを重点課題として共通原因を分析し、施工手順・技能・工具・検査方法を見直しつつ、他の不適合も個別に是正する。

エ．合計件数だけを減らすため不適合報告を禁止する。

答え・解説 正答：ウ

ア：誤り。頻度と重要性を踏まえて優先する。

イ：誤り。頻発は管理改善が必要な兆候である。

ウ：正しい。頻発不適合の共通原因へ重点的に対策し、他の不適合も放置しない。

エ：誤り。報告抑制は品質改善にならない。

総合解説：頻発不適合の共通原因へ重点的に対策し、他の不適合も放置しない。。実地・総合判断では、単一の知識だけでなく、適用条件・関係者・工程・品質・安全への影響を整理して判断することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0132 6-5 複合問題 > 図表読解 | 難易度：応用

問題：次の3情報が同時に示された。

【工程】機器搬入が2日遅延

【品質】接続前の耐圧試験は未実施

【安全】搬入経路で歩行者動線と交差

最も適切な現場判断はどれか。

ア．工程回復のため耐圧試験を省略する。

イ．安全対策だけ行い工程と品質は成り行きに任せる。

ウ．搬入を急ぐため歩行者通路を無予告で閉鎖する。

エ．搬入遅延の回復策を検討しつつ、必要な耐圧試験を省略せず、搬入時は歩行者動線を分離して工程・品質・安全を同時に成立させる。

答え・解説 正答：エ

ア：誤り。品質確認を犠牲にしてはならない。

イ：誤り。工程・品質も管理対象である。

ウ：誤り。第三者安全と周知が必要である。

エ：正しい。複合問題では一つの管理目標だけを優先せず、必要条件を同時に満たす案を選ぶ。

総合解説：複合問題では一つの管理目標だけを優先せず、必要条件を同時に満たす案を選ぶ。。実地・総合判断では、単一の知識だけでなく、適用条件・関係者・工程・品質・安全への影響を整理して判断することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0133 6-5 複合問題 > 条件整理 | 難易度：基礎

問題：施工方法を検討する際の条件整理として、最も適切なものはどれか。

- ア．法令・設計要求・施設運用上の必須条件と、施工者が選択できる工法・人員・手順を分けて整理する。
- イ．すべての条件を同じ重要度として並べるだけにする。
- ウ．法令条件も施工者判断で自由に変更できる条件とする。
- エ．選択可能な工法を一つに固定し比較しない。

答え・解説 正答：ア

- ア：正しい。変更できない制約と選択可能な手段を分けると合理的な施工判断ができる。
- イ：誤り。優先順位と拘束条件が不明確になる。
- ウ：誤り。法令条件は任意に変更できない。
- エ：誤り。代替案比較ができない。

総合解説：変更できない制約と選択可能な手段を分けると合理的な施工判断ができる。。実地・総合判断では、単一の知識だけでなく、適用条件・関係者・工程・品質・安全への影響を整理して判断することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0134 6-5 複合問題 > 条件整理 | 難易度：基礎

問題：病院の給水切替で『断水3時間以内』『救急部門は断水不可』『夜間のみ作業可』という条件がある。最も適切な計画はどれか。

- ア．全館を昼間6時間断水する。
- イ．救急部門への仮設給水を確保し、新設配管を事前施工・試験した上で夜間3時間以内に切替える。
- ウ．救急部門も同時に断水し工期を優先する。
- エ．事前施工せず夜間に全配管を新設する。

答え・解説 正答：イ

- ア：誤り。時間帯と断水時間の条件を満たさない。
- イ：正しい。すべての必須条件を同時に満たす施工方法となっている。
- ウ：誤り。救急部門断水不可の条件に反する。
- エ：誤り。3時間以内の切替が困難になる。

総合解説：すべての必須条件を同時に満たす施工方法となっている。。実地・総合判断では、単一の知識だけでなく、適用条件・関係者・工程・品質・安全への影響を整理して判断することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0135 6-5 複合問題 > 条件整理 | 難易度：基礎

問題：機器重量4t、搬入口幅1.8m、機器幅2.1m、床許容積載条件にも制約がある。最も適切な条件整理はどれか。

- ア．機器を無断で切断して幅だけ合わせる。
- イ．床条件を無視して最短経路で搬入する。
- ウ．分割搬入の可否、搬入口拡張、床補強・養生、揚重経路を比較し、構造・機器性能・工程を満たす案を選ぶ。
- エ．搬入口より広い機器でも押し込めば入ると判断する。

答え・解説 正答：ウ

- ア：誤り。機器性能・保証に影響する。
- イ：誤り。床損傷・事故の危険がある。
- ウ：正しい。寸法、重量、床耐力、機器仕様を同時に整理して実現可能な案を選ぶ。
- エ：誤り。物理的制約を無視している。

総合解説：寸法、重量、床耐力、機器仕様を同時に整理して実現可能な案を選ぶ。。実地・総合判断では、単一の知識だけでなく、適用条件・関係者・工程・品質・安全への影響を整理して判断することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0136 6-5 複合問題 > 条件整理 | 難易度：標準

問題：道路上の配管工事で、発注者は3日後の着工を希望しているが、必要な特定建設作業届は未提出である。最も適切な判断はどれか。

- ア．発注者希望を優先して無届で着工する。
- イ．工期が短い場合は届出期限を無視できる。
- ウ．作業時間を短くすれば届出対象から自動的に外れる。
- エ．届出の法定期限と対象作業を確認し、必要な手続が完了するよう工程を変更する。

答え・解説 正答：エ

- ア：誤り。発注者要望で法定手続を省略できない。
- イ：誤り。工期の長短だけで期限は消えない。
- ウ：誤り。対象機械・地域等の要件で判断する。
- エ：正しい。工程条件より法令上必要な事前手続を優先し、適法な工程へ再設定する。

総合解説：工程条件より法令上必要な事前手続を優先し、適法な工程へ再設定する。。実地・総合判断では、単一の知識だけでなく、適用条件・関係者・工程・品質・安全への影響を整理して判断することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0137 6-5 複合問題 > 条件整理 | 難易度：標準

問題：工法Aは安価だが工期10日、工法Bは高価だが工期5日、工法Cは工期5日だが要求品質を満たさない。工期上5日以内が必須の場合、最も適切な判断はどれか。

- ア．要求品質を満たすことを前提に、工期5日以内を満たす工法Bのコスト妥当性を検討する。
- イ．最も安い工法Aを選び工期条件を無視する。
- ウ．最も速い工法Cを選び品質条件を無視する。
- エ．品質・工期を見ず価格だけで決める。

答え・解説 正答：ア

- ア：正しい。必須の品質・工期条件を満たす案の中でコストを比較する。
- イ：誤り。必須工期条件を満たさない。
- ウ：誤り。要求品質を満たさない案は採用できない。
- エ：誤り。複数条件を統合して判断する必要がある。

総合解説：必須の品質・工期条件を満たす案の中でコストを比較する。。実地・総合判断では、単一の知識だけでなく、適用条件・関係者・工程・品質・安全への影響を整理して判断することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0138 6-5 複合問題 > 条件整理 | 難易度：標準

問題：既設配管の正確なルートが図面で不明なまま改修工法を確定する必要がある。最も適切な対応はどれか。

- ア．図面にないので配管は存在しないと決める。
- イ．試掘・開口調査等で不確定条件を減らし、確認できない部分は仮定とリスクを明示して施工方法を段階的に決める。
- ウ．最悪条件も調査せず工法を固定する。
- エ．不確定情報を関係者へ伝えない。

答え・解説 正答：イ

- ア：誤り。既設図と現況が異なる可能性がある。
- イ：正しい。不確実性を認識・低減し、残るリスクを明示して管理する。
- ウ：誤り。根拠のない固定判断は手戻りを招く。
- エ：誤り。関係者間で共有する必要がある。

総合解説：不確実性を認識・低減し、残るリスクを明示して管理する。。実地・総合判断では、単一の知識だけでなく、適用条件・関係者・工程・品質・安全への影響を整理して判断することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0139 6-5 複合問題 > 条件整理 | 難易度：標準

問題：施工中に『昼間作業可』から『夜間のみ』へ条件が変更され、同時に騒音制限も厳しくなった。最も適切な対応はどれか。

- ア．当初計画をそのまま夜間へ移すだけにする。
- イ．騒音条件を無視して夜間に大型機械を集中使用する。
- ウ．作業時間、騒音の大きい工程、照明・安全、人員の勤務条件を再整理し、低騒音工法や工程組替えを検討する。
- エ．安全照明を減らして騒音対策費へ回す。

答え・解説 正答：ウ

- ア：誤り。夜間特有の条件を反映していない。
- イ：誤り。騒音制限へ対応していない。
- ウ：正しい。条件変更は工程だけでなく環境・安全・労務へ波及するため総合的に再整理する。
- エ：誤り。安全を犠牲にしてはならない。

総合解説：条件変更は工程だけでなく環境・安全・労務へ波及するため総合的に再整理する。。実地・総合判断では、単一の知識だけでなく、適用条件・関係者・工程・品質・安全への影響を整理して判断することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0140 6-5 複合問題 > 条件整理 | 難易度：応用

問題：設備更新で、施設管理者は停止時間短縮、メーカーは十分な試運転時間、施工者は夜間作業回避を求めている。最も適切な対応はどれか。

- ア．最も立場の強い者の要求だけを採用する。
- イ．誰とも協議せず施工者都合だけで決める。
- ウ．試運転を省略して停止時間だけ短縮する。
- エ．各要求の必須性と根拠を整理し、事前施工・仮設運転・段階切替など代替案を示して関係者で合意可能な工程を決める。

答え・解説 正答：エ

- ア：誤り。他の必須条件を満たせない可能性がある。
- イ：誤り。関係者調整が必要である。
- ウ：誤り。品質・性能確認を犠牲にしてはならない。
- エ：正しい。競合条件は根拠と優先度を整理し、代替案を比較して合意形成する。

総合解説：競合条件は根拠と優先度を整理し、代替案を比較して合意形成する。。実地・総合判断では、単一の知識だけでなく、適用条件・関係者・工程・品質・安全への影響を整理して判断することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0141 6-5 複合問題 > 条件整理 | 難易度：応用

問題：屋上機器更新で『クレーン設置地盤が弱い』『道路使用は夜間のみ』『病院の騒音制約あり』『機器停止は2時間以内』という条件がある。最も適切な計画方針はどれか。

- ア．地盤支持条件を満たす揚重方法を選び、道路許可条件・騒音制約・停止2時間を満たすよう事前組立と切替工程を統合して計画する。
- イ．最も厳しい一条件だけ満たし他は無視する。
- ウ．クレーン能力が高ければ地盤条件は考えない。
- エ．停止時間を守るため許可条件を無視する。

答え・解説 正答：ア

- ア：正しい。複合条件では全ての必須制約を満たす実行可能案を構築する必要がある。
- イ：誤り。他の条件違反や事故につながる。
- ウ：誤り。クレーンの安定性には地盤条件が重要である。
- エ：誤り。工程条件を理由に法令条件を無視できない。

総合解説：複合条件では全ての必須制約を満たす実行可能案を構築する必要がある。。実地・総合判断では、単一の知識だけでなく、適用条件・関係者・工程・品質・安全への影響を整理して判断することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0142 6-5 複合問題 > 現場総合判断 | 難易度：基礎

問題：工期が遅れている現場で、品質試験未実施かつ高所作業の手すり不備も見つかった。最も適切な現場判断はどれか。

- ア．工期優先で両方とも省略する。
- イ．危険な高所作業を停止・是正し、必要な品質試験を確保したうえで、工程回復策を別途組み立てる。
- ウ．品質試験だけ行い手すり不備は放置する。
- エ．手すりだけ直し品質試験を記録上実施したことにする。

答え・解説 正答：イ

- ア：誤り。工程遅延を理由に安全・品質を犠牲にできない。
- イ：正しい。安全・品質の必須条件を満たした上で工程を回復するのが施工管理の基本である。
- ウ：誤り。重大な墜落リスクを放置できない。
- エ：誤り。虚偽記録は認められない。

総合解説：安全・品質の必須条件を満たした上で工程を回復するのが施工管理の基本である。。実地・総合判断では、単一の知識だけでなく、適用条件・関係者・工程・品質・安全への影響を整理して判断することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0143 6-5 複合問題 > 現場総合判断 | 難易度：基礎

問題：掘削中に未確認の埋設管と湧水が同時に見つかった。最も適切な初動はどれか。

- ア．埋設管を避けながらそのまま掘り進める。
- イ．湧水だけ排水し埋設管は無視する。
- ウ．該当箇所の作業を止め、埋設物管理者・図面情報を確認し、地山安定と排水条件を再評価して施工方法を見直す。
- エ．工程を優先して掘削速度を上げる。

答え・解説 正答：ウ

- ア：誤り。損傷事故の危険がある。
- イ：誤り。双方のリスクを管理する必要がある。
- ウ：正しい。未知の埋設物と地山条件変化は重大なリスクであり、停止・確認・再計画が必要である。
- エ：誤り。危険状態を悪化させる可能性がある。

総合解説：未知の埋設物と地山条件変化は重大なリスクであり、停止・確認・再計画が必要である。。実地・総合判断では、単一の知識だけでなく、適用条件・関係者・工程・品質・安全への影響を整理して判断することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0144 6-5 複合問題 > 現場総合判断 | 難易度：標準

問題：設計変更でポンプ容量が増え、機器重量・電源容量・配管径・基礎条件が変わった。最も適切な対応はどれか。

- ア．ポンプ本体だけ変更し他は当初設計のままにする。
- イ．配管径だけ変更し基礎重量条件は確認しない。
- ウ．完成後の試運転で問題が出てから考える。
- エ．変更内容を機械・電気・構造・工程・搬入条件へ横断的に反映し、施工図・機器・基礎・配管・試運転計画を再確認する。

答え・解説 正答：エ

- ア：誤り。電源・配管・基礎等に影響する。
- イ：誤り。機器重量増加は基礎条件にも影響する。
- ウ：誤り。施工前に整合を確認する必要がある。
- エ：正しい。設備変更は関連設備・構造・工程へ連鎖するため総合調整が必要である。

総合解説：設備変更は関連設備・構造・工程へ連鎖するため総合調整が必要である。。実地・総合判断では、単一の知識だけでなく、適用条件・関係者・工程・品質・安全への影響を整理して判断することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0145 6-5 複合問題 > 現場総合判断 | 難易度：標準

問題：道路上の配管工事で、無許可の作業範囲拡大と配管接合不良が同時に判明した。最も適切な対応はどれか。

- ア．拡大範囲の作業を止めて許可条件を確認・是正し、接合不良の影響範囲を特定して補修・再試験する。
- イ．接合不良だけ直して無許可作業は続ける。
- ウ．許可だけ取り直し品質不良は隠ぺいする。
- エ．工程が遅れるため両方とも完成後に処理する。

答え・解説 正答：ア

- ア：正しい。法令不適合と品質不適合をそれぞれ適切に是正し、再開条件を明確にする。
- イ：誤り。法令違反状態が残る。
- ウ：誤り。品質不適合を放置できない。
- エ：誤り。施工中に是正する必要がある。

総合解説：法令不適合と品質不適合をそれぞれ適切に是正し、再開条件を明確にする。。実地・総合判断では、単一の知識だけでなく、適用条件・関係者・工程・品質・安全への影響を整理して判断することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0146 6-5 複合問題 > 現場総合判断 | 難易度：標準

問題：駅前工事で搬入遅延を取り戻すため、歩行者通路上空を使って昼間に揚重回数を増やす案が出た。最も適切な判断はどれか。

- ア．工程回復のため歩行者に自己責任で通行させる。
- イ．第三者への落下・接触リスクを許容せず、通行規制・時間帯変更・揚重方法変更など安全条件を満たす回復策を検討する。
- ウ．保護帽を貸し出せば歩行者通路上空の揚重を無制限に行う。
- エ．吊り荷を速く移動させれば危険時間が短いのでよい。

答え・解説 正答：イ

- ア：誤り。公衆災害防止を施工者側で管理する必要がある。
- イ：正しい。第三者安全を確保できる範囲で工程回復策を選ぶ必要がある。
- ウ：誤り。保護帽で吊り荷落下リスクを許容できない。
- エ：誤り。速度を上げることは安全対策にならない。

総合解説：第三者安全を確保できる範囲で工程回復策を選ぶ必要がある。。実地・総合判断では、単一の知識だけでなく、適用条件・関係者・工程・品質・安全への影響を整理して判断することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0147 6-5 複合問題 > 現場総合判断 | 難易度：標準

問題：空調設備の試運転で、設計風量不足、異常振動、モーター電流高値が同時に確認された。最も適切な対応はどれか。

- ア．風量だけ調整して振動と電流は無視する。
- イ．電流値を記録から削除して合格とする。
- ウ．運転を安全な状態に戻し、ダンパー・フィルター・ダクト抵抗・回転方向・機器据付等を系統的に確認して原因を特定し、是正後に再試運転する。
- エ．異常状態のまま長時間運転して自然に改善するか確認する。

答え・解説 正答：ウ

- ア：誤り。他の異常が重大故障につながる可能性がある。
- イ：誤り。実測結果を隠してはならない。
- ウ：正しい。複数異常は相互に関連する可能性があり、安全を確保して原因を系統的に分析する。
- エ：誤り。機器損傷や事故を拡大するおそれがある。

総合解説：複数異常は相互に関連する可能性があり、安全を確保して原因を系統的に分析する。。実地・総合判断では、単一の知識だけでなく、適用条件・関係者・工程・品質・安全への影響を整理して判断することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0148 6-5 複合問題 > 現場総合判断 | 難易度：標準

問題：ポンプ据付は機械業者、電源は電気業者、制御は計装業者が担当し、試運転で起動しない。最も適切な現場対応はどれか。

- ア．機械業者だけの責任と決めて他業者を帰す。
- イ．全業者が別々に設定を変更する。
- ウ．原因確認前に保護装置を解除して強制起動する。
- エ．責任追及を先行せず、電源供給、制御信号、インターロック、機器側条件を各業者と共通手順で切り分けて原因を特定する。

答え・解説 正答：エ

- ア：誤り。原因が電源・制御側にある可能性もある。
- イ：誤り。無秩序な変更で原因が分からなくなる。
- ウ：誤り。安全保護を解除してはならない。
- エ：正しい。複数システムの境界では共通の確認手順で切り分けることが有効である。

総合解説：複数システムの境界では共通の確認手順で切り分けることが有効である。。実地・総合判断では、単一の知識だけでなく、適用条件・関係者・工程・品質・安全への影響を整理して判断することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0149 6-5 複合問題 > 現場総合判断 | 難易度：標準

問題：竣工5日前に、未完工事3件、是正未完2件、行政検査1件未実施、取扱説明未実施が残っている。最も適切な対応はどれか。

- ア．各未完事項の完了条件・担当・期限・前後関係を整理し、行政検査等の固定条件を優先して日次で完了確認する。
- イ．件数だけ数えて担当者は決めない。
- ウ．竣工日にまとめて確認する。
- エ．書類上すべて完了扱いにして後で施工する。

答え・解説 正答：ア

- ア：正しい。残工事は責任者・期限・依存関係を明確にし、固定日程を含めて短周期で管理する。
- イ：誤り。実行責任が不明確になる。
- ウ：誤り。手遅れになる可能性が高い。
- エ：誤り。実態と記録を一致させる必要がある。

総合解説：残工事は責任者・期限・依存関係を明確にし、固定日程を含めて短周期で管理する。。実地・総合判断では、単一の知識だけでなく、適用条件・関係者・工程・品質・安全への影響を整理して判断することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0150 6-5 複合問題 > 現場総合判断 | 難易度：応用

問題：病院の機械室更新で、 工程2日遅延、 新設配管の耐圧試験未実施、 夜間揚重の道路使用許可条件が未確認、 高所作業床の一部に開口、 翌朝までに給水復旧が必要、という状況である。最も適切な現場責任者の判断はどれか。

- ア．翌朝復旧だけを優先して試験・許可・安全措置を省略する。
- イ．開口部を是正して安全を確保し、許可条件を確認した上で必要な耐圧試験を実施し、仮設給水や作業順序変更を用いて翌朝復旧を目指す工程へ再編する。
- ウ．工程遅延だけを理由に工事全体を無期限停止する。
- エ．書類上は全条件を満たしたことにして現場作業は従来どおり続ける。

答え・解説 正答：イ

- ア：誤り。工程優先で法令・安全・品質を犠牲にできない。
- イ：正しい。重大な安全・法令・品質条件を満たしつつ、施設機能と工程を成立させる代替策を組み合わせるのが総合施工管理である。
- ウ：誤り。必要な正と回復策を検討すべきである。
- エ：誤り。実態と記録の不一致は許されない。

総合解説：重大な安全・法令・品質条件を満たしつつ、施設機能と工程を成立させる代替策を組み合わせるのが総合施工管理である。。実地・総合判断では、単一の知識だけでなく、適用条件・関係者・工程・品質・安全への影響を整理して判断することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21